LION

今月の特集

国際協会100周年

1

LIONS INTERNATIONAL IN JAPAN Official Publication of Lions Clubs International

JANUARY 2017 WWW.THELION-MAG.JP

ライオン誌（毎月20日発行）第59巻第7号 2016年12月20日発行 昭和33年12月19日付第3種郵便物認可

ライオン誌日本語版出版物

ライオンズ新書

ライオンズ新書01 ライオンズ力を高める 第1版第2刷

ライオンズクラブの歴史や組織からクラブ運営の全般までを、分かりやすく系統的にまとめた。1983年に刊行した『ライオンズ スピリット』の後継書。

新書判 224ページ

1部500円・送料実費

●大口注文割引：100〜499部＝1部450円／500部以上＝1部400円

ライオンズ新書02 LCIF早分かり 第2版第1刷

ライオンズクラブ国際財団の目的や仕組み、寄せられた献金がライオンズの人道奉仕にどのように生かされているかなど、LCIFの概要や意義をまとめた。

新書判 184ページ
1部400円・送料実費

●大口注文割引：100〜499部＝1部350円／500部以上＝1部300円

ライオンズスクール・シリーズ

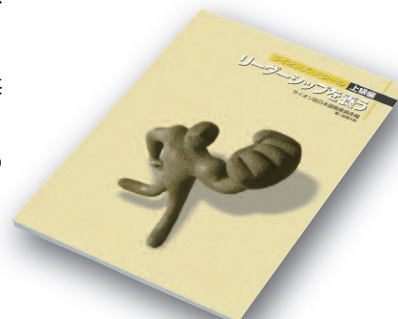
初級編・ライオンズクラブ入門 第3版第6刷

入会したての新会員を対象に、これだけは知っておきたいライオンズクラブの基礎知識をまとめた。併せて「ライオンズ用語集」も収録。

A4判 64ページ
1部400円・送料実費

上級編・リーダーシップを養う 第1版第5刷

国際協会の総合的リーダシップ育成プログラムを基に編集。地区役員研修会などの副読本に、またクラブ会長や地区役員の指導力育成に最適。

A4判 64ページ
1部400円・送料実費

●大口注文割引（ライオンズスクール・シリーズ）：100〜499部＝1部350円／500部以上＝1部300円

■合計で2万円以上ご注文の場合、送料無料（組み合わせは問いません）。※ただし、急ぎの場合は実費請求
■お申し込みはEメール（office@thelion.jp）またはファクス（03-6674-8781）でお願いします

ライオン誌日本語版出版物　注文書

●『ライオンズ力を高める』成り立ちから組織、運営まで分かる簡単ガイド ……………… 部
●『LCIF早分かり』世界ナンバー1 NGOの簡単ガイド ……………… 部
●ライオンズスクール初級編『ライオンズクラブ入門』 ……………… 部
●ライオンズスクール上級編『リーダーシップを養う』 ……………… 部

地区名 33 -	クラブ名	お名前（クラブで注文の場合は不要）
ご住所 〒 -		お電話番号

LION MAGAZINE IN JAPAN
January 2017, Vol.59 No.7

We Serve CONTENTS

■2017年1月号
表紙
東京都江戸川区
影向のマツ
写真／鈴木秀晃

本誌は環境に配慮したFSC®認証紙を使用しています。

A Message From Our President

Chancellor
Bob Corlew
Lions Clubs International
President

変わるもの、変わらぬもの

カリフォルニア州バーバンクのメンバーたちを写したこの古い写真が大好きです。彼らの楽しそうな様子。助けを必要とする人のために資金を調達するのは簡単なことではありません。でもライオンズの仲間と一緒に行うのなら、それも楽しい時間になるでしょう。

創設100周年を迎えるに当たり来し方を振り返ると、彼らがいつでもライオンであることを満喫していたことがよく分かります。他者に奉仕することは義務や押し付けではありません。それは喜びであり、充実感を得られるものです。つまり他者に与えることで、私たち自身がより大きなものをもらっているのです。それは私たちの小さな「秘密」です。

100周年には私たちが成し遂げてきた顕著な功績と共に、ライオンとして豊かな経験を得られたことを祝福します。多くのライオンにとってこうした経験はただのボランティア活動ではなく、アイデンティティーを確立する上で重要な部分を占めるものです。

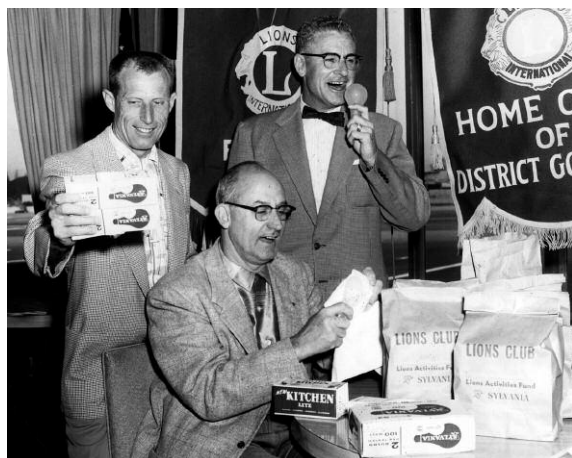
これまでライオンズは時代のニーズに応えステップアップしてきました。彼らには隣人たちが必要とするもの、地域社会に不足しているものが分かっていました。地域社会と共にあったからです。彼らはいたずら好きで、時には互いのネクタイを切ったりすることもありましたが、原点である奉仕の使命には常に忠実でした。

今日のライオンズではかつてのような悪ふざけはあまり見られません。他にも幾つか変わった部分があります。私たちは1987年に会員資格から「男性」の文字を削除して以来、女性の才能と献身を得られるようになりました。全般的に私たちは、より多様性を尊重するようになっています。しかしライオンズがライオンズであることは変わりありません。「ニーズがあるところに、ライオンズがいる」。メルビン・ジョーンズがライオンズクラブを創設した時、誰かのかゆい所をかいてあげられるような、親しみと奉仕をもって他者に手を差し伸べたいという、湧き出る情熱がありました。いかに私たちが進化を遂げ、新しいプログラムに取り組むことになったとしても、この奉仕への姿勢は変わりません。

明日のライオンズはどうなっているのでしょうか。私たちには実にすばらしいアイデアがあります。この夏にシカゴで開催される第100回国際大会から、未来の青写真を描くLCIフォーワードを展開していきます。私たちはもちろん、いつでも奉仕の使命を中心に前進しています。しかしライオンとしての経験値を高めること、そして奉仕に関心がある人々にライオンであることの魅力を存分に伝えることもまた目的の一つです。私たちは将来成功を収めることが出来るでしょうか。これまでの100年間の功績が、おのずと物語っています。

2016-17年度国際会長
ボブ・コーリュー

※「国際会長メッセージ」の原文は国際協会公式サイトに掲載されています
http://www.lionsclubs.org/EN/who-we-are/our-leaders/presidents-message.php

4

飢えた子どもたちに米を届けよう

骨と皮ばかりに痩せ、腹だけが異常に膨れた子ども。飢餓に苦しむケニアの人々の姿を捉えた写真集『アコロ（喰うものをくれ！）』（三留理男／1981年刊）に、栃木県・足利ライオンズクラブの会員たちは大きな衝撃を受けた。当時、アフリカの深刻な飢餓の一方で、飽食の時代を迎えた日本では減反政策が始まっていた。「米の余っている日本人には、この子らを救う人道的義務がある」

例会で衆議一決したクラブは、すぐさま行動を起こした。ケニアのクラブへ質問状を出すと、米は喜んで食べること、支援があれば政府や他の奉仕団体と協力して分配することを知らせ、救援を求めてきた。政府保有の古米、古々米は350万トンに及ぶことも分かったが、その放出は容易ではなかった。クラブは再三ライオンズの理念や実績を説明し、粘り強い努力の末ようやく許可が下りる。払い下げ価格にケニアへの運賃などを加えた費用は1トン当たり17万円。まず10トン分の発送を手配し、これが新聞各社で報道されると、他クラブや市民の協力が相次いだ。その後寄せられた1千万円近い募金とLCIF交付金によって、83年12月までに100トンの救援米がケニアへ送り出されることになる。

82年4月、ケニアのモイ大統領が国賓として来日し、足利ライオンズクラブに迎賓館で開かれる歓迎晩餐会の招待状が届いた。天皇陛下と並び立ったモイ大統領は、代表として出席した佐藤貞夫333-B地区ガバナー（当時）に「おお、ライオンズ」と声を掛け、その手を固く握りしめた。

アフリカでは現在も、干ばつや紛争によって多くの人が飢餓状態に置かれている。広島城北、広島佐東、広島西北各ライオンズクラブは1999年から休耕田を利用して地域住民と共に米を育て、アフリカのマリ共和国へ送っている

SCENE

東京三鷹ライオンズクラブ

取材／鈴木秀晃

子どもたちに武蔵野の風景を残すため、里山保全に取り組むライオンズ

三鷹市は東京23区と接する多摩地域の東端。かつては武蔵国多摩郡に属しており、市域には今も豊かな自然が残っている。

そんな三鷹市の南東、中央自動車道のすぐ脇に天神山という小さな丘がある。市内で唯一、遺構が残る城郭跡で、今は「新川天神山青少年広場」となっている。イヌシデやコナラを中心とした雑木林であった所を、40年程前に、三鷹青年会議所（JC）が整備し、市に移管した。が、市では広場の管理は行うものの、積極的な活用までには至らなかった。そうした状況が続く中、1982年に東京三鷹ライオンズクラブが誕生。チャーター・メンバーには三鷹JCのOBも多く、新川天神山青少年広場造成に関わった会員もいた。そこでクラブとして天神山の整備に乗り出し、落ち葉の清掃や、根回りの黒土補充、杭の転び止め金物の取り付けなどを始めた。

以来、天神山整備は東京三鷹ライオンズクラブ（仁礼均会長／45人）の継続事業となり、現在は三鷹ちびっ子農園の参加家族も加わり、一緒に保全活動をしている。また昨年からは、整備作業に合わせて子どもたちのツリークライミング（木登り体験）も実施。子どもたちが自然の大切さを考えるきっかけとしている。

雑木林は自然に出来たものではなく、昔の人たちが長い年月をかけて育ててきたもの。東京でありながら、三鷹市にはこうした雑木林が残っており、かつての武蔵野の面影を今に映している。子どもたちにその風景を継承するため、ライオンたちは里山保全に力を注ぐ。

SCENE

兵庫県・洲本ライオンズクラブ

取材／井原一樹　写真／関根則夫

2020年からの授業実施を見据えたロボット&プログラミング教室

11月3日、兵庫県淡路島にある洲本市立淡路文化史料館では洲本ライオンズクラブ（57人）が主催するロボット&プログラミング教室が行われていた。

今期の神田智康会長は「前例がない事業を」と革新的な事業を模索していた。青少年健全育成事業はスポーツ関連のものになりがちで、文化系の事業はあまりないことと、文部科学省が２０２０年からプログラミングの授業の必修化を検討していることを受けて、この事業を発案した。前例がない会長のアイデアに対して、クラブ内の反対はなかった。だが、どんな事業になるのか、共通イメージを持つことは難しかった。それでもメンバーは成功を目指して協力。当日を迎えることとなった。

定員60人に対し、どのくらいの応募があるのかも予想がつかない。協力してくれた教育委員会からは必ず人が集まると太鼓判を押されていたが「もし10人とかだったらどうしようと思った」と神田会長は語る。しかし、ふたを開けてみたら応募は２１３人。これは対象とした洲本市内の小学生の1割が応募してきた計算になる。この日は残念ながら抽選に漏れた子どもたちも多く見学に訪れていた。抽選に際し、クラブで絶対的なルールとしたのが、コネは一切認めないこと。厳正な抽選を実施した。事実、神田会長の息子も抽選から漏れている。

終わったばかりだが、既に教育委員会からは次回の開催を要請されている。子どもたちの真剣な表情からもこの事業の成功が確信出来ただろう。

334-A地区

愛知県・半田ライオンズクラブ

物語の風景を巡るウォークラリー「南吉のあしあと」

　新美南吉をご存じだろうか。愛知県半田市出身の児童文学作家で、代表作は長く小学校の教材にも採用されてきた『ごんぎつね』。いたずら好きのごんはある日、兵十のウナギを盗んだが、後になって、兵十が病気の母のために獲ったウナギだったと知る。申し訳なく思ったごんは、兵十の家にこっそりとキノコや栗など食べ物を届けるようになるが、そうとは知らない兵十は、ごんがいたずらをしに来たと思い火縄銃で撃ってしまう。つぐないの半ばで倒れる、なんともやるせないごんの最期は多くの人の記憶に残っているのではないだろうか。

　生誕の地・半田市には、自筆原稿や日記、手紙などを展示する新美南吉記念館がある他、南吉にちなんだイベントが各所で行われるなど、市を挙げてその功績が顕彰されている。半田ライオンズクラブ（榊原敏雄会長／92人）でも青少年健全育成の一環として、新美南吉が紡いだ物語の舞台を巡るウォークラリー「南吉のあしあと」を企画。阿久比ライオンズクラブやボーイスカウトにも協力してもらい、地域を巻き込んでの開催となった。南吉がよく散歩をしていた半田市と、阿久比町にまたがる矢勝川に沿って、作品と関わりの深い場所など5カ所を選びコースを決めた。ちなみにこの川堤には9月中旬頃から2キロにわたって300万本の彼岸花が咲き誇り、全国からも注目される観光地となっている。

CLUB REPORT クラブ・リポート

●投稿要領：アクティビティ、例会など、クラブの活動を具体的に。700字程度。写真を添付。ライオン誌ウェブマガジンのオンライン投稿か、Eメールまたは郵送で。送付先は57ページ下。

※写真に100周年ロゴが付いた活動は100周年記念奉仕事業として国際協会に報告された事業

当日は秋晴れで、絶好のウォークラリー日和。9時30分から13時30分までに受付を済ませればスタートは自由とあって、1周約2時間ほどのウォークラリーは、混雑もなく緩やかに始まった。

それぞれのチェックポイントには童話に関連したゲームなどが用意されている。例えば、河川敷のチェックポイントには、石を投げてランプを割ってしまう『おじいさんのランプ』のストーリーにちなんで、ランプが描かれた絵にボールを投げるゲームを用意。「ごんぎつね」の名の由来になったと言われる権現山では、南吉が生きていた時代の遊び、めんこやお手玉、駄菓子屋でお馴染みの練り飴などが用意され、参加した子どもや保護者が思い思いの時間を過ごした。目玉は、幼稚園の園庭に1日がかりで設置した巨大迷路。何周もする子もいるほどで大好評だった。チェックポイントで押してもらったスタンプが全部そろうと、記念品と交換してもらい終了となる。860枚用意した参加記念ワッペンも最後には足りなくなり、スタッフのものを急いで回収するという事態も発生。童話の世界を巡るウォークラリーは大成功のうちに終了した。

（取材／砂山幹博　撮影／長谷川直紀）

333-C地区

千葉県・松戸中央ライオンズクラブ

ルワンダで障害者を支援する日本人女性の講演会を開催

松戸中央ライオンズクラブ（柿沼由美子会長／27人）は11月8日、チャーター・ナイト39周年記念例会に、ルワンダ在住のルダシングワ真美さんと、ご主人のガテラ・ルダシングワ・エマニュエルさんを招き講演会を行った。

ルワンダはアフリカ中部の内陸国。フツ、ツチ、トゥワの部族で構成されるが、かつては同一言語を使う同じ民族として暮らしていた。ところが、1918年にルワンダを植民地化したベルギーは民族分けを断行。それが94年のルワンダ虐殺の原因となった。当時の大統領暗殺に端を発したフツ系政府とフツ過激派による、ツチと穏健派フツに対する集団殺戮は約100日間に及んだ。「高い木（ツチ）を切れ」をスローガンにツチ虐殺を煽るラジオからの声に、普通の人々が隣人を襲うようになり、最終的には総人口の1、2割に当たる50万人から100万人が殺害されたと見られている。

ルダシングワ夫妻はそのルワンダに義肢工房を設立。暴力や地雷で足を失った人たちに無償で義足や杖、車椅子などを提供している。また、隣人が隣人を殺すという異常な出来事を経験し、生き残っても手足を失うなど大きな傷を負った人たちに希望を持ってもらおうと、パラリンピックへの出場を計画。シドニー・パラリンピックにルワンダ初の代表を送るなど、心の復興を目指した活動も続けている。

今回の講演会は柿沼会長が、真美さんがスワヒリ語を学んだケニアの語学学校の2年先輩だった縁で実現。例会には松本宰史地区ガバナーと木村英俊第2副地区ガバナーを始め、松戸市内やお隣柏市内のブラザー・クラブの会員たちも出席。ルワンダが置かれた厳しい現実など、ルダシングワ夫妻の話に耳を傾けていた。（取材／鈴木秀晃）

337-B地区

第2リジョン第4ゾーン、第5ゾーン（宮崎県）

歴史を学び、クラブの今を見つめる 100周年記念合同例会

10月28日、337・B地区第2リジョン第4ゾーン、第5ゾーン共催のライオンズクラブ創立100周年記念合同例会が、都城市のホテル中山荘で開かれた。100周年を機に地区内のライオンが一堂に集まり、共にライオンズクラブの歴史を学ぶと共に、熊本地震の被災者支援のためにLCIF献金を募ろうと両リジョンが計画。吉見章一地区ガバナー、渕野二三世第1副地区ガバナー、中原正勝第2副地区ガバナーら地区役員を含む177人が出席した。

開会後まず、吉見地区ガバナーがこの日出席した今期の新会員8人にライオンズのピンを贈呈。「停滞することなく1歩でも半歩でも前進し、未来へ奉仕のバトンを渡そう」と各クラブに訴えた。その後、田崎登保（のりやす）地区100周年記念コーディネーターが講演。「100周年を自分たちの活動を見直す機会とし、誇りを持てるクラブにしていこう」と述べ、続いてあいさつに立った渕野第1副地区ガバナーも「ライオンズは奉仕のために集まっていることが原点。それを見つめ直す大事な1年にしたい」と話して、この節目にクラブの在り方をじっくりと見据え、

記念合同例会の最後は出席者全員が手をつないで「また会う日まで」を歌い、ライオンズ・ローアを唱和して、互いの絆を確認し合った

次の100年へ踏み出そうと呼び掛けた。

この例会に当たっては、ボブ・コーリュー国際会長にオンラインでメッセージをもらえるよう依頼していたが、時差の関係などで残念ながら実現しなかった。しかしメルビン・ジョーンズの功績を伝える映像を独自に制作して放映するなど、力のこもった企画内容となった。

目的の一つとした熊本地震への支援には第2リジョン第4ゾーン、第5ゾーンの13クラブの拠金に出席者のドネーションを加えた総額35万7073円が集まり、吉見地区ガバナーを通じてLCIFへ献金された。（取材／河村智子）

332-A地区

青森県・八戸東ライオンズクラブ

家族に注目される機会を作る ちびっ子サッカー大会

2016年10月5日、八戸東ライオンズクラブ（角眞二会長／58人）は、青少年育成事業の一環として、県南地方の保育園児を対象に第20回八戸東ライオンズ杯ちびっ子サッカー大会を八戸市南郷陸上競技場で開催した。

1997年にスタートした大会は年々規模を拡大し、今回は20チーム、園児とその家族約千人が参加。核家族、少子化が進む現代だが、この日ばかりは両親、祖父母も一堂に会して応援合戦に臨んだ。過去には熱が入り過ぎて運営スタッフから注意を受ける祖父母の姿もあったほど、熱気のある大会である。

大会は各チームが思い思いのパフォーマンスを交えた入場行進で開幕した。試合ではちびっ子選手たちが、一心にサッカーボールを追い、縦横無尽に駆け回る。試合終了後の閉会式では、各チームに20周年を記念してライオンズの盾が贈られた。それに対し園児たちはお礼として練習してきた歌を合唱してくれた。また、サプライズとして参加メンバーに、園児手作りのサッカー大会メダルが手渡された。

大会の目的として、サッカー競技の底辺拡大や、サッカー競技を通じて団体行動やルールの順守を学んでもらうことも大事だと考えている。だが、一番の目的はこの年代の子どもたちに、家族からたっぷり愛情が注がれる機会を提供することだ。ともすれば結果重視の教育活動が重きをなす中、本来あるべき子育ての有用なイベントとして、これからも末永く、ちびっ子サッカー大会が継続出来るよう努力を重ねていく。（地区キャビネットT委員長／坂本健一）

334-D地区

富山昭和ライオンズクラブ

20年前から続く 赤十字病院への継続奉仕

富山昭和ライオンズクラブ（105人）は、富山赤十字病院で20年前から継続的に奉仕活動を続けている。富山赤十字病院は、富山駅から徒歩数分。市のほぼ中心に位置し、高度な医療を提供する中核的な病院として多くの市民に利用されている。また周辺には富山県富岩運河環水公園を始め、富山市体育館などの各種スポーツ施設がある。来年にはここに現代美術のすばらしいコレクションを有する富山県美術館の開館が予定されており、市民が集う施設が集中している地域だ。

2016年度、当クラブでは富山赤十字病院に関わる三つの事業を行った。

8月22日には、市民7万人が参加する「ふるさと富山美化大作戦」の一環として、当クラブ・メンバーが富山赤十字病院の敷地内の除草を中心とした清掃活動を行い美化に努めた。

10月には桜の苗木の植樹と待合室用の長椅子を寄贈した。桜の苗木植樹は1996年を皮切りに20年間継続的に実施している。当初に植えたものは既に大きく育っており、桜の季節には多くの市民の目を楽しませている。今年も病院長や看護師の方々と共に植樹を行い、桜並木づくりの拡充に取り組んだ。

更に今年はライオンズクラブ国際協会100周年を記念したレガシー・プロジェクトの一環で、革張りの背もたれのある4人掛けの長椅子2脚を寄贈した。

これからも当クラブでは富山赤十字病院に対する奉仕を継続していく所存である。（会長／嘉藤肇、環境保全委員長／平尾嘉章、PR委員長／砂田卓也）

333-C地区

千葉県・佐倉ライオンズクラブ

レガシー・プロジェクトとして佐倉幸せの鐘寄贈

2016年10月22日、佐倉ライオンズクラブ（林孝至会長／32人）は50周年記念式典を開催。100周年記念レガシー・プロジェクトに合わせた周年記念事業として「佐倉幸せの鐘」を佐倉市へ寄贈した。

当クラブの地元である佐倉市は千葉県の北西部に位置しており、市の北部には印旛沼がある。

記念式典は印旛沼と市街地が一望出来る自然豊かな高台にある印旛沼サンセットヒルズで挙行された。

式典では佐倉市長始め市内の団体や地元企業、松本宰史333・C地区ガバナーなどの来賓による、佐倉幸せの鐘の除幕式を実施。地区名誉顧問、親クラブである市原ライオンズクラブ、姉妹提携クラブの台北市北区ライオンズクラブ他、リジョン内クラブの会員が見守った。

この幸せの鐘寄贈事業は、クラブ・メンバーの地元愛から始まったアクティビティだ。佐倉市内外の方々に自然豊かな印旛沼の景色を見ながら幸せを願って頂きたいとの思いから設置を決定。「観光名所としてのレガシー」、「鳴らして楽しむレガシー」、「家族、友人、恋人同士の思い出に残るレガシー」を目的に、メインの鐘を除く部分の設計、材料、建設などは全て会員の手によって完成させた。

また、佐倉市はこの鐘をNPO法人が主体運営している「恋人の聖地プロジェクト」に登録し、観光名所としての付加価値を高め、市をPRして行く意向である。今後は婚活パーティーや、ガーデン結婚式など多くの方々に活用してもらえればうれしい限りだ。（幹事／夏海優）

334-D地区

富山県・高岡古城ライオンズクラブ

高岡古城公園ジャズ・パークで文化的な価値をアピール

2015年に7万坪（東京ドーム2個分）の広さを持つ高岡市民の憩いの公園、高岡古城公園が国の史跡に認定された。かつて城を囲んでいた堀や土塁が文化財としての価値が高いと評価されたからだ。

現在、古城公園の中には、市民会館や体育館、博物館などがある。だが、せっかく国の史跡に指定されたのなら改めて市民にその文化的な価値を知ってもらいたいと高岡古城ライオンズクラブ（54人）では考えた。高岡古城公園は当クラブと同じ名称であり、とりわけ愛着があるという背景もある。

しかし、ただ見に来てくださいというのでは効果は望めない。そこで当クラブでは広大な古城公園一帯を使った野外ジャズフェスティバルを企画。16年10月10日12時から16時まで、四つの特設ステージで県内22のジャズバンドに演奏をしてもらった。

博物館の屋上からの演奏は、まるで粉雪のように空からジャズが降ってくるよう。市民会館エントランスからは演奏が風のように木々の間を流れていき、本丸広場の芝生の上の演奏は堀の水面を覆うように広がっていった。

古城公園に集まってくれた5千人近い市民の皆さんはジャズを楽しみながら公園内を回遊することで改めて史跡の文化的な魅力も感じてもらえたようだ。夜には、市民会館においてニューヨークと東京から招いた二つのプロのグループによるジャズ・コンサートを開催した。高岡古城公園が市民公園として再認識された最良の一日になったと思う。（会長／中山安治）

335-A地区

兵庫県・神戸あじさいライオンズクラブ

子育てする親を応援 オレンジリボンシンポジウム開催

2016年11月5日、神戸あじさいライオンズクラブ（32人）は長田区ふたば学舎にて「子育てに温かい社会を作ろう ～親と子の幸せを応援～」をテーマに、オレンジリボンシンポジウムを開催した。これには、虐待の事後に親を加害者として責めるのではなく、苦悩しながら子を育てる親を助ける気持ちを社会に広げようという目的がある。

第1部は、兵庫県児童虐待等専門アドバイザーの島田妙子氏の講演。幼少期に実父と継母から虐待を受けた島田さんだが、当時「誰かお父ちゃんの心を助けて」と願っていたという。「モノにも人にも当たらない社会を」と訴え、「怒りを我慢するのではなくやり過ごす」アンガーマネジメントについてお話を頂いた。第2部はパネル・ディスカッション。保育事業者から現場で目にする虐待の現実、神戸市こども家庭局長からは虐待防止への課題などが挙がった。中でもNPO法人ママの働き方応援隊の小田さんの「外出先で泣いたりいたずらしたりと大変な時、周囲の目のために叱っているのか子どものためになのか分からなくなる」という話に会場から共感のため息。イクメン代表の藤原さんからは「まずは市役所から男性の長時間労働を無くせないか？」との提言も出た。第3部はワタナベフラワーのコンサート。子どもたちも大喜びだった。その他、神戸市こども家庭局によるお絵描き、工作コーナーやママの働き方応援隊による「ママcafé」などのブース出展、常磐大学の保育士さんの託児など、多くの方にご協力頂いた。（会長／平井真千子）

334-B地区

第1リジョン第2ゾーン（岐阜県）

41回目を迎えた 海外派遣　高校英語弁論大会

2016年10月16日、334-B地区第1リジョン第2ゾーンの5クラブ（大垣・大垣東・養老・大垣水都・大垣城）は合同継続事業として「第41回海外派遣　高校英語弁論大会」を開催した。会場となったのは大垣フォーラムホテル。岩花義治334-B地区ガバナーをお招きして実施した。

41回目となる今大会のテーマは「夢」。岐阜県西濃地区13の高校の1、2年生計23人が、将来の夢などをすばらしい英語で堂々と話し、大変盛況な大会となった。審査員は星城大学マーティン・スナイダー教授ら3人。大接戦の末、個人では、大垣北高校1年の片岡実優さんが見事に優勝した。また、団体では大垣北高校が最優勝校となった。例年、上位者を海外に派遣しているが、今回はガバナー公式訪問記念事業として1人の派遣も決定しており、通常の派遣に合わせて上位4人が来年の夏にヨーロッパやアジアに派遣されることとなった。

この英語弁論大会は、大垣ライオンズクラブの名誉顧問であるライオン井上孝二が、高校生を海外へ派遣し、語学力向上はもちろんのこと、国際的視野を広げ、将来世界で活躍出来る人材を育成し、地元西濃地区を活気ある街にすることを目的にスタートした大変歴史ある特別事業だ。1976年の開始以降、既に200人を超える生徒が海外に派遣されており、その目的は徐々に達成されていると感じている。

今後も大会を継続し、青少年の育成支援を行い、地域社会と共生していく活動に取り組んでいきたい。（大垣東ライオンズクラブPR委員長／近藤高善）

336-C地区

広島フェニックス ライオンズクラブ

麻薬・覚醒剤乱用防止運動に336-A地区、336-C地区が協賛

厚生労働省と都道府県は、毎年、麻薬・覚醒剤乱用防止運動を実施している。2016年は10月1日～11月30日の間に各地で啓発活動や大会が行われた。

中国・四国地区大会は、広島県が担当。11月9日に平和記念公園内の広島国際会議場「ダリア」で開催され、336・A、336・C両地区が協賛した。この啓発運動の協賛にライオンズクラブが名を連ねたのは初めてではないかと思う。広島県はライオンズが育てる大学生薬物乱用防止認定講師に強い関心があり、ぜひ紹介したいとのことであった。

そこで大学生が薬物乱用防止教室を実演。高知県立大学（高知桜ライオンズクラブ）が手作り教材の活用と高知弁による寸劇、福山平成大学（福山北ライオンズクラブ）は断り方の寸劇をそれぞれ実施した。当クラブが育成する広島国際学院大学は薬物乱用マルバツクイズで会場を沸かせた。パネル・ディスカッションでは、取り組みの動機、やりがい、今後の抱負などが語られ、若いエネルギーにあふれた広島大会になった。覚えたセリフを一瞬詰まり、隣の学生がすぐさまサポートする。その一生懸命さに会場が一つになり、467人の来場者から「今までで一番の大会でしたね」、「感動したよ」と大きなエールが送られた。

大学生認定講師を通して、ライオンズクラブと大学生がタッグを組むことによりアクティビティの幅が広がることを教えられた。YCE、献血、献眼などその可能性は無限大である。何より、大学生との交流は楽しい。

（広島フェニックス ライオンズクラブ会長／国光栄介）

333-A地区

新潟セントラル ライオンズクラブ

16年目を迎えた小学生バレーボール大会

バレーボールは中学校のクラブ活動で始める子どもたちが多いが、地域の小学生を対象に熱心に指導する団体も意外と多い。新潟セントラル ライオンズクラブ（51人）のライオン村山幹男もその指導者の一人であった。

2001年9月、ライオン村山の意見を参考に、当時の三役と担当委員長の提案で、「スポーツを通して健全な青少年の指導育成」を目的として、第1回セントラルライオンズカップ小学生バレーボール大会が開催された。小学生としての教育的・体力的見地から、設備の整った会場で思う存分バレーボールを楽しんでもらうことが目標。対象は交通費等、保護者の負担が少ないリジョン内の団体にし、リーグ戦とトーナメントを組み合わせ、なるべく多く試合が出来るよう計画した。

また勝敗とは別に、当日元気に活躍した選手を我々が独自に選ぶ「優秀選手賞」を設け、勝ち負けだけでなく、励みになるような企画も現在まで続いている。チームには参加賞として大会名の入ったボールをプレゼントしているが、昨年は結成50周年記念として全員にボールペンを贈った。テレビ局や地元紙の取材もお願いしている。

この大会も今年で16年目を迎え、最初に参加した子どもたちは既に指導者の年齢となった。クラブとしては、これからも末永く小学生を見守りながら、いつかここから優れたプレイヤーが育ってくれることを夢見ている。この大会が子どもたちの人生の中で、スポーツとの関わり方を変えるきっかけとなれば幸いだ。

（会長／丸山聡子）

特集：国際協会100周年

創設者メルビン・ジョーンズの話

1917年、アメリカ・イリノイ州シカゴの実業家メルビン・ジョーンズの呼び掛けに応えた全米のビジネスクラブが参集しライオンズクラブが発足。それから1世紀、ライオンズクラブは世界中で地域社会をより良くするために活動してきた。100周年を迎えるに当たり、改めて創設者メルビン・ジョーンズに思いを馳せる。

砦で生まれた男の子

ライオンズクラブの創設者メルビン・ジョーンズは、シカゴ南郊のマウントホープ墓地に眠っている。ジョーンズの墓は、木々に囲まれた少し小高い丘の上にある。

傍らには、晩年を共に過ごした最愛の妻リリアンの墓碑が、寄り添うように埋め込まれている。リリアンは1974年まで生き、メルビンのことを次のように語っていた。

「彼はまるでメリーゴーラウンドのような人でした。そう、楽しくて降りることが出来ないの」

メリーゴーラウンドは人生の象徴と言われる。リリアンにとってメルビンは、永遠に回り続けてほしい人だったのだろう。そしてジョーンズはまさにメリーゴーラウンドのように、ライオニズムのため回り続ける人生を送ったのだった。

◆

1879年1月13日、アメリカ・アリゾナ州のトーマス砦で一人の男の子が生まれた。陸軍大尉ジョン・カルビン・ジョーンズと、妻リディアは、この子をメルビンと名付けた。

トーマス砦はアリゾナ州フェニックスの東約230キロ、ヒラ川のメキシコ寄りにあった。現在もフォート（砦）トーマスの地名が残り、2010年の国勢調査では人口374人となっている。

ヒラ川はかつてアメリカとメキシコの国境となっていた。1853年、アメリカが現在のアリゾナ州南部とニューメキシコ州に当たる土地をメキシコから購入したことで、この地域もアメリカ領となった。当時は先住民族のアパッチ族が暮らす地域でもあり、アパッチはアメリカとメキシコを移動しながら、アメリカの入植者たちを襲撃したり、メキシコで略奪を繰り返したりした。

メルビンが生まれたトーマス砦は、アパッチ討伐の前線基地だった。1876年に設けられ、基地の名前は南北戦争で功績を挙げたジョージ・ヘンリー・トーマス将軍にちなんで付けられた。ピーク時、砦には27の建物があり、酒場や売春宿も出来ていた。この地域はマラリアという大きな問題を抱えており、トーマス砦は「軍の最悪の要塞」と呼ばれていたらしい。メルビンはそんな砦の中で7歳まで過ごしている。

1886年、ジェロニモの名で知られるアパッチ族の戦士ゴヤスレイ（あくびをする人の意）らが投降し、35年間続いたアパッチ戦争が終結。陸軍は駐留する部隊を徐々に撤収し、メルビンの父も北部へ転属となった。

転属先のミズーリ州セントルイスは西部開拓の玄関口（ゲートウェイ）で、辺境のトーマス砦と比べると月とスッポン。大きな街だった。ちなみに、バドワイザーで知られるアンハイザー・ブッシュは1852年にセントルイスで誕生している。

ジョーンズ一家はここで3年暮らした後、セントルイスから北へ約200キロのイリノイ州クインシーに転居した。クインシーは『トム・ソーヤの冒険』発祥の地として知られるミズーリ州ハンニバルの対岸にある。セントルイスに比べると規模は小さいが、1850年代から60年代にかけ、クインシーも西部への中継地として繁栄。人口は1950年の7千人から70年には2万4千人と膨れ上がっていた。

メルビンはそのクインシーで少年時代を過ごし、ユニオン実業学校を経て、チャドック・カレッジに進学。ここで法律を学んだ。が、メルビンが20歳となった1899年に、チャドック・カレッジは閉鎖され、翌1900年からキャンパスはチャドック・ボーイズ・スクールという孤児院に生まれ変わった。

チャドック・カレッジはもともと、メソジスト教会によって創設された学校で、根底には規則正しい生活の推奨や、困窮者の救済など社会福祉的な要素が流れていた。後に世界最大の奉仕団体を創設することになる

メルビン・ジョーンズの原点の一つは、この辺りにあるのかもしれない。

チャドック・カレッジでの生活を終えるに当たり、メルビンは自分の進路を決めなくてはいけなかった。カレッジでの成績は優秀だったので、更に勉強を続け法律家を目指すことも出来た。また、メルビンは美声の持ち主でもあり、音楽の道に進むという選択肢もあった。

「弁護士になるべきか、友人の間で評判の良かったテナーを生かして声楽家になるべきか、大いに迷った」

とは、後の彼の述懐である。

進路を決めかねていたメルビンは、父の勧めもあり、社会勉強も兼ねて州の中心シカゴへ旅行した。

「シカゴに着いたら、この人を訪ねなさい」

父はメルビンに、ある住所を書いた紙を渡した。それは、父の戦友であったウィリアム・ハーシェーズという人の自宅だった。

シカゴに着いて、真っ先に訪ねたハーシェーズ氏は、メルビンを温かく迎え入れ、彼の話を聞いてくれた。そしてシカゴ市内の弁護士事務所や幾つかの会社に、メルビンを推薦する手紙を書いてくれた。

メルビンがクインシーの自宅に戻った後、そのうちの1社から採用通知が届いた。それは、保険ブローカーのジョンソン・アンド・ヒギンズからのものだった。

同社は1845年にニューヨークで設立され、ジョーンズを採用した頃にはシカゴを含む八つの都市に事務所を開設し、75人の従業員を抱えていた。1912年に処女航海で沈没したタイタニック号の主幹保険会社を務めるなど、船舶関係の保険を中心に業務を拡張していた優良会社だった。メルビンは両親と相談の上、この申し出を受け入れることにし、1900年の秋、シカゴで社会人としての第一歩を踏み出した。

昼食会への誘い

当時、シカゴは1871年の大火災からの復興が進み、摩天楼と呼ばれる高層ビルの建設ラッシュが起きていた。メルビンが初めてシカゴの地を踏んだ1900年には人口が170万人に達し、ニューヨークに次ぐアメリカ第二の都市となっていた。

メルビン・ジョーンズは、そんな大都市シカゴで順調に仕事を進めた。そして30歳となったある日、一人のシカゴ美人と出会う。シカゴ商品取引所の受付係をしていたローズマリー・アマンダ・フリーマンという女性だった。メルビンはローズマリーに熱を上げ、せっせと手紙を書いて、まめなところを見せた。そのかいあって二人はその年の5月にゴールイン。1954年にローズマリーが亡くなるまで、二人は人生を共にした。

ローズマリーは結婚後、かねてからの念願であったプロ・ゴルファーを目指すことになり、メルビンもそれを全面的にバックアップした。そして1912年、ローズマリーは見事プロテストに合格。翌13年には、メルビンもまた独立を果たし、保険代理店を開業することになる。メルビン・ジョーンズ34歳の年だった。

メルビンとローズマリーはシカゴ西郊、後に国際本部が出来るオークブルックと、シカゴ・オヘア空港のちょうど中間辺りにあるエルムハーストに新居を構えた。メルビンはそこからシカゴのダウンタウンにあるオフィスへ通い、精力的に仕事をこなすようになる。

1913年3月、開業して間もないジョーンズの事務所へ、一人の男が訪ねて来た。ウィリアム・タウンと名乗るその男は、すぐに用件を切り出した。

「君をビジネス・サークルの昼食会に招待したいんだが……」

聞くと、タウンたちは1908年にシカゴ・ビジネス・サークルというクラブを作り、毎週木曜日に昼食会を開いて、会員間のビジネス交流を目的に情報交換しているという。

当時、シカゴを始めアメリカの各都市にはこうしたクラブが幾つも出来ていた。後にライオンズと共に世界三大社会奉仕団体と言われるロータリークラブ（1905年にシカゴで創立）も、キワニス（1915年にミシガン州デトロイトで創立）も、親睦と相互扶助を目的としたクラブとしてスタートしている。

タウンという人物の突然の訪問に戸惑ったジョーンズだが、結局、その誘いを受け入れ、ボーハンというレストランでの昼食会に参加した。昼食会には地元では名の知られた事業家も顔を見せていた。ジョーンズは料理を口に運びながら、彼らの会話を注意深く聞いていた。

話に出るのは、ゲスト・スピーカーを誰にするか、会場はどこがいいか、会食の時のバンドはどうしようかなど、そんな話題ばかりで、会話に加わる気にはならなかった。ただ、

「会員たちは長年の友人同士で、お互いに尊敬し合っているようだ」

それだけは分かった。話題にはなじめなかったが、ジョーンズはしばらく昼食会に参加することにした。

1919年、シカゴ博物館の入口にあるライオン像の前に並ぶシカゴ・セントラル ライオンズクラブのメンバーたち。中央に立つのがメルビン・ジョーンズ

ライオンズクラブ創設へ

ジョーンズがサークルに加わってしばらく経ったある日、昼食会を休会にしたらどうかという話が出た。会員数は減っていたし、昼食会への出席者も少ない。そうした話題が出るのも不思議ではなかった。ジョーンズとて、昼食会が気に入っていたわけではなかったが、この時ばかりは猛然と反対し、漠然と会合を開くのではなく、きちんとした年間計画を立てたらどうか、と提案してみた。

古参会員たちは、この新参者の正論に対し、ではお手並み拝見とばかり、彼を1914年1月からの新年度幹事に指名してしまった。

ジョーンズは面食らったが、自分から言い出した手前、やるしかないと指名を受諾。まずは会員名簿と首っ引きで、片っ端から会員に電話をかけまくった。が、1月最初の昼食会の日、出席者は20人足らずで、電話の効果は表れなかった。

電話では駄目だと思ったジョーンズは、次の日から個別訪問に切り替えた。欠席者に会って直接話してみると、自分が感じていたのと同じような不満を口にする者が多かった。ジョーンズは聞き役に回りながら、

徐々に彼らの信頼を得ていった。

そして1月2回目の昼食会の日、会場となったプランターズ・ホテルには、これまで欠席していた会員たちが続々と姿を見せていた。

「ジョーンズ君、いったい何人来るんだ、今日は……」

古参会員に聞かれたジョーンズ自身、実は驚いていた。結局、出席者はいつもの4倍近い75人に上った。この流れは次の会合でも保たれた。

個別訪問でサークルの在り方を語り合ったジョーンズへの信頼が、この結果に結び付いたのは明らかだった。そこでジョーンズは、話し合いの中で聞いた会員たちのニーズを分析し、サークルを新たな方向へ導こうと考え始めた。やがてジョーンズは、本業そっちのけでこの仕事に没頭し、ついには睡眠時間を削るほどのめり込んでいった。

その頃、ロータリークラブを始めとした幾つかのクラブは地域の枠を超え、他の都市へと広がりを見せ始めていた。それはジョーンズのアイデアとも似通っていた。

ジョーンズはまず、ビジネスクラブが全米にどれくらいあるのか調べた。次に、それらのクラブに手当たり次第往復書簡を送り、クラブの目的や会員数、活動状況を聞いた。調査は3年間も続き、ジョーンズの質問に対する返信は500通を超えた。更にジョーンズは業界の会合や旅行の際に、各都市のビジネスクラブ会員と会い、腹を割って話をした。

それらの結果をジョーンズは細かく整理・分析した上で「全米的組織の構想」としてまとめ上げ、1916年の暮れ、ビジネス・サークルの役員会に提案した。サークルに入会して3年、年齢もまだ37歳のジョーンズだったが、役員会は、多くの会員が信頼を寄せていた彼の提案に、一切の付帯条件を付けずに同意。ライオンズクラブの結成に向けて、山が動いた瞬間だった。

年が明けるとジョーンズは、更に精力的に新組織の準備を進めていった。来る日も来る日も各地のクラブに新組織への参加を呼び掛ける手紙を書き、その返信に応えた。そしてついに、運命の日がやって来る。

1917年6月7日、木曜日。シカゴのラサール・ホテルに、次々と各クラブの代表者が集まってきた。ジョーンズの呼び掛けに応えたのは27クラブだった。会合に出席した多くのクラブは、社会事業団的な組織体を作ることに合意。更に「ライオンズ」という名称の採択が要請され、各クラブが批准した上で90日後に会合を再開することとした。

8月、シカゴ・ビジネス・サークルもシカゴ・セントラル ライオンズ(クラ)と改名しこれに批准。正式に13番目の加盟クラブとして記録された。

そして90日後の10月8日、テキサス州ダラスのアドルファス・ホテルにおいて、名称採択に批准した22クラブによる第1回大会が開催され、ここにライオンズクラブ協会が創設されたのである。

ライオンズクラブの歴史

1970年
●大阪万国博覧会に際し、日本ライオンズは会場内に身体障害者センターを設け、ヘルパーとして活躍。連日300人を超える障害者らが利用した。

1961年～
●兵庫県神戸市とアメリカ・カリフォルニア州の学生たちが互いの国で夏休みを過ごした。現在のユース・キャンプ及び交換（YCE）プログラムはここから始まった。

1952年
●フィリピン・マニラ ライオンズｸﾗﾌﾞのスポンサーで東京ライオンズｸﾗﾌﾞが結成され、東京都丸の内のホテル・テイト（現パレスホテル東京）でチャーター・ナイトが開かれた。

1975年
●302W-5地区（京都・滋賀・奈良）の資金援助を受けて、サリドマイド児の電動義手が開発された。

1967年
●日本ライオンズはインドでのハンセン病撲滅のため、JALMA救ライ・センターを設立した。17年間にわたったこの活動は日印両国をも動かし、大きな成果を挙げた。

1958年
●東京で第2回アジア大会（現OSEALフォーラム）開催。日本で最初の国際的なライオンズの大会となった。

1980　1970　1960　1950

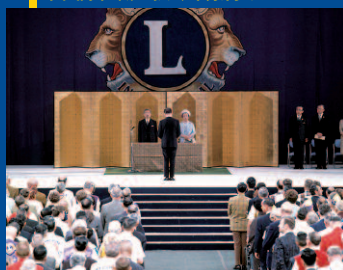
1973年
●日本の302W地区は沖縄県の本土復帰を記念して、子どもたちのために水浴施設「ジャブジャブ池」を寄贈した。

1965年
●冷害に悩む山村の児童の支援のため、岩手県・盛岡ライオンズｸﾗﾌﾞは児童が摘んだスズランの花を東京へ送り、都内の26クラブがこれを買い上げ同校の給食費に充てた。この活動は全国的に大きな反響を呼び、全額国庫負担による辺地校完全給食が実現した。

1955年
●兵庫県神戸市で第1回302地区年次大会が開催された。

。日
れた

1978年
●日本で2回目となる第61回国際大会が東京で開かれた。

1969年
●アジアで初めての国際大会が東京で開かれ、開会式には昭和天皇、皇后両陛下が臨席された。この大会は日本の市民にライオンズクラブという国際組織を強く印象付けた。

1959年
●日本初の国際理事、石川欣一国際理事が就任。

2016年
●日本では4回目となる第99回国際大会が福岡市で開催された。

1981年
●OSEAL地域から初めて、日本の村上薫国際会長が第65代国際会長に就任。「みんなで築こう和の社会」の国際会長テーマを掲げた。

2000年代後半以降
●ライオンズクエスト・プログラムは2000年代後半に全国に広まり、日本の地区、クラブが普及を進めている。

2011年
●東日本大震災の救援・復興のためLCIFは2100万㌦を交付。日本のライオンズは物資調達や被災地での炊き出しなどの活動に奔走し、復興支援を続けている。

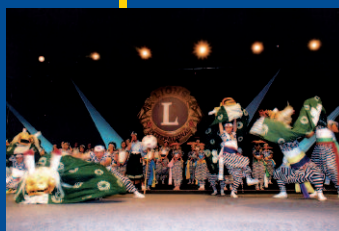
1995年
●阪神・淡路大震災では全国規模の支援を展開。LCIFからは約46万㌦が交付され、障害者施設再建などに使われた。また国際理事会はこの震災を受け、LCIF大災害援助金の限度額を10万㌦から100万㌦へ引き上げた。

1990年代以降
●90年代以降、日本のライオンズクラブによる途上国支援が活発になり、カンボジアでの小学校建設など教育支援に寄与している。

2010　2000　1990

2015年
●第99代目の山田實紘国際会長が就任。国際会長テーマ「命の尊厳と和」を掲げた。

1997年～
●1997年に330-A地区（東京）で薬物乱用防止認定講師制度が確立され、現在では全国各地で青少年への薬物乱用防止教室が開催されている。

1987年
●小川清司国際第3副会長が就任した
本から2人目の国際会長誕生が期待さ
が、89年9月に他界した。

2002年
●第85回国際大会が大阪で開かれた。日本で3回目の開催となった。

1991年
●日本のライオンズはLCIFに多大な貢献をしてきた。この年始まった視力ファースト・キャンペーン（CSF）に対する日本ライオンズの献金額は1億5千万㌦に上った。

香港フォーラム

祭典からの脱却を目指し、意義のあるフォーラムへ

第55回東洋・東南アジア・ライオンズ（OSEAL）フォーラムが香港で開催された。香港で開かれたフォーラムとしては過去最多となる8617人の登録があり、うち日本は1745人だった。「変化を祝う」というテーマ通り、会議の運営などを通じて、フォーラムの在り方を変えようという意気込みが感じられた。（取材／井原一樹）

開会式

コンパクトにまとまった会場

2016年11月10日から13日にかけて、香港のアジア・ワールド・エキスポで第55回東洋・東南アジア・ライオンズ（OSEAL）フォーラムが開催された。フォーラム・テーマは「変化を祝う（CELEBRATE THE CHANGE）」。そのテーマにふさわしく、今までのフォーラムからの変化を目指す運営が随所に顔をのぞかせた。

会場となるアジア・ワールド・エキスポは香港国際空港から電車で一駅。今回のOSEALフォーラムは、レオ・フォーラムなどごく一部のイベントを除き、開会式から各種セミナーまで、この会場で完結するようになっていた。会場1階の展示ホールでは各種展示やフード・バザーが行われ、2階、3階部分で会議やセミナーが実施された。

会場がまとまっていたこともあり、展示ホールは昨年、一昨年のフォーラムと比べてにぎわっていたように見受けられた。国際協会創設100周年を記念して各国ライオンズの展示も行われ、多くの人が訪れていた。

簡素化した運営で変化を目指す

今回のフォーラムでは、前回と同じく100周年を意識した発言が多くなされたが、同時にOSEAL地域をどう変革していくか、という視点での意見も多く出されていた。

10日、フォーラム開幕に先駆けて行われた第2回ステアリング委員会で山田實紘LCIF理事長が「この香港フォーラムを勉強のフォーラムにする第一歩目にする」と宣言した。元国際会長らで構成されるスタンディング（常任）委員会で、フォーラムの在り方について見直すべきだという意見が相次いだためだという。実際、これまでのフォーラムではセミナー会場はガラガラ。開会式も最初の入場が終わると席を立つメンバーが多かった。この状況に危機感を抱いたスタンディング委員会を代表した意見である。

翌11日の協議会議長と地区ガバナ

香港各地をリレーされてきたトーチが到着。開会式で点灯のデモンストレーションが行われた

ーの会議では、カジット・ハバナナンダ元国際会長がOSEALフォーラムの公式記録となる公式アーカイブについて言及した。続けて実施された国際会長と地区ガバナーの会議ではボブ・コーリュー国際会長がガバナーに対し、自分の地区のクラブ会長のモチベーションを上げることの重要性と、ガバナーの影響力がいかに大きいかを説き、地区を活性化させるよう働き掛けた。

開会式では、従来、ひとくくりにされていたショーの時間と開会式のタイムスケジュールが見直され、きっちり分けてプログラムに明記された。これにより、開会式の時間がコンパクトにまとめられ、参加しやすいように工夫されていた。

協議会議長と地区ガバナーの会議

今回、最も大きな変化として参加者にインパクトを与えたのが、フォーラム開催地のローテーション制の廃止ではないだろうか。今までは決められた国の持ち回りで開催していたフォーラムだが、今後は入札制度によって開催地が決まる。また、国際理事候補者のローテーションについても、中国の会員数が増えたこともあり、見直しが発表された。これにより、全ての国及び地域から理事を輩出することが可能になるという。しかし同時に、タム元国際会長からは国際理事候補の質を維持しなければいけないという痛烈な意見も出、今後は新たに作る委員会で国際理事候補者の資質を審査。そこで適格だと認められなかった場合は推薦をしないという方針が固められた。

今回のフォーラムでは、これまで各会議で背景に掲げられていたつり看板も省略。何の会議をやっているのかは、外に小さなバナーを出すだけで伝え、金銭的にも余計な支出を減らし、コンパクトなものにしようという意識が見られた。これによって、会議場の準備時間がほとんど必要なくなり、同じ会場で連続して違うセミナーや会議を開催出来るようになったことは評価出来る点だろう。

日本語セミナーは高田順一元国際理事が100周年についての情報や日本における実施の状況についてアナウンスされた

参加者の意識をどう変えるか

しかし、こうした「変化」を意識した運営に反し、参加者の意識はあまり変わっていないようだ。せっかく看板等を廃して会議と会議の間の時間を短縮出来たはずなのに、執行役員などとの記念撮影に夢中になるメンバーが多いために、結局次の会議が時間通りに始まらない、といった現象も頻繁に起きていた。

開会式や閉会式は相変わらず空席が目立ち、セミナーも参加者が非常に少なかった。しかし、これは運営や参加者の問題だけでなく、ＯＳＥＡＬ地域が言語の多様性を持っていることに大きな要因があるとも言える。通訳を通していると、どうしても時間が掛かる上、混み入った内容が理解しにくい。自国語で行われるセミナー以外、参加する気になれないというメンバーも多いだろう。

だが、ステアリング委員会で確認

LCIFセミナーでは山田LCIF理事長が8月に起きたイタリア中部地震に対し、48時間以内に交付金10万㌦が送金されたことを報告

ダイアン・コーリュー国際会長夫人によるセミナーも実施された。会長夫人によるセミナーの実施は異例のことであり、参加者は女性メンバーが多数を占めていた

されたように、フォーラムの公用語は英語とされている。せっかく参加するのだから、他国の状況や、最新の情報を得られるフォーラムという貴重な機会を無駄にしてしまうのはもったいないことだ。また、決定事項を理解しなければ、クラブに帰ってから十分な報告が出来なかったり、自らの地区にとって非常に不利な決定などが通ってしまったりする可能性もある。その時「知らなかった」では済まされない。

そういう意味では、今年度は日本の議長、地区ガバナーから意見が発せられる機会が多かった。フォーラム開催地のローテーション・システムの変更については日本の議長から鋭い意見が飛び出し、タム元国際会長と意見を交換するような場面も見られた。ただ出席するのでなく、議論に参加しようという意思が強く感じられる一幕だった。

今回のフォーラムでスタンディング委員会が正式に設置を認められ、開催地、国際理事候補者の決定において非常に強い権限を持つことが決まった。強いリーダーシップによって地域全体の底上げが期待される一方で、過程が見えにくくなることが懸念される。フォーラムの会議でその動向をガバナーがしっかり精査し、異議があれば発言していくことも意識すべきだろう。

山田LCIF理事長は最終日に「変化が見られるフォーラムとなったが、まだまだ変革を続けなければならない」と述べ、今後のOSEALの更なる変化を期待した言葉でフォーラムを総括した。

次回は17年11月17日から20日まで台湾の台南で行われることが決定している。18年の開催地は中国。19年以降は入札によって決まる。

単なるお祭り騒ぎにならず、実のあるフォーラムの実現へ。OSEAL地域の挑戦は続いていく。

佐藤義男国際理事候補

中国のアリス・ラウ国際理事候補

ボブ・コーリュー国際会長と地区ガバナーの会議でも100周年記念奉仕チャレンジやレガシー・プロジェクトの重要性について触れられた

インターナショナル・ショーでは、オーケストラに合わせて墨絵と漢詩を描くなど、香港らしいパフォーマンスが行われた

100周年記念展示には、日本は100周年記念奉仕チャレンジの活動写真と歴史年表、フォーラム誘致を目指す336複合地区のパネルを展示した

13日閉会式では台湾にフォーラム・バナーの引き継ぎが行われた

LCIF理事長・国際第1副会長公式訪問

11月17日に愛知県名古屋市、翌18日には広島市で、山田實紘LCIF理事長とナレシュ・アガワル国際第1副会長（インド）の複合地区公式訪問が行われた。アガワル国際第1副会長が「人生で最も記憶に残る一日」と述べた被爆地・広島での公式訪問を取材した。（取材／河村智子）

広島平和記念公園で市内クラブの出迎えを受ける山田理事長とアガワル副会長。公式訪問には佐藤宣之、中村泰久両国際理事、鈴木誓男LCIF国際理事が随行した

広島に到着した山田實紘ＬＣＩＦ国際理事長夫妻とナレシュ・アガワル国際第1副会長夫妻はまず、広島平和記念資料館を訪問した。志賀賢治館長の案内で館内と平和記念公園、原爆ドームを見学し、原爆死没者慰霊碑への献花も行った。アガワル副会長は原爆の威力や被害状況について志賀館長に度々質問を投げ掛けながら説明に耳を傾けた。続いて広島市役所を訪れて松井一實広島市長を表敬訪問。松井市長が会長を務める平和首長会議の取り組みを聞いたアガワル副会長は、地元のパンジャーブ州バタラにも参加を呼び掛けたいと協力を約束した。

原爆ドーム前で「ここで見たことを多くの人に伝えていきたい」と話すアガワル副会長

その後行われた335、336、337複合地区公式訪問には、各地区の地区ガバナーと第1副地区ガバナーが出席し、山田ＬＣＩＦ理事長、アガワル副会長の講演が行われた。

松井広島市長（写真右）への表敬訪問

山田ＬＣＩＦ理事長は従来と異なる献金方法として、例会ごとにワンコイン500円ずつ献金する方法や、クラブ会長や幹事などクラブに貢献した会員にメルビン・ジョーンズ・フェロー（ＭＪＦ）の称号を贈ってたたえる方法を挙げ、国際的な人道支援に寄与するＬＣＩＦへの協力を呼び掛けた。

アガワル副会長は、今回の広島訪問は人生で最も記憶に残る一日になったと話し、

「戦争は平和を守るための手段と言われますが、我々ライオンズはそれがナンセンスであると知っています。真に平和を生み出すものは平和であり、奉仕です。今日の世界で最大の脅威は『違い』に起因しています。人種や宗教の違いです。しかしライオンズにとって重要なのは全く別の違い、飢えた人と十分に食べられる人、字が読めない人と教育を受けた人といった違いです。我々はこうした違いと闘っているのです」

と、ライオンズの奉仕と平和に関する考えを述べた。

「Victory（勝利）」のVを二つ合わせて「We」のサインを作るアガワル副会長

更に、国際協会は現在、山田前国際会長が手掛けた変革を機に大きな変化の時を迎えており、次年度は原点である奉仕に注力するとして、次のように語った。

「次年度からは新しい国際会長テーマはありません。大きな変化を起こすためには、ライオンズの本質的な精神に重点を置くことが何より重要だと考えたからです。それは奉仕です。次年度から少なくとも4年間はテーマは必ず『ウィ・サーブ』となります。我々が力を合わせれば必ずや変化が生まれます。『ウィ』のパワーと『アクション（行動）』のパワーを合わせることで『サービス（奉仕）』のパワーを実現出来ます」

330・A地区「ダメ。ゼッタイ。」「NOドラッグ」薬物乱用防止大パレード

薬物の無い社会を訴える大パレード

2016年10月29日、東京の真ん中、銀座、丸の内、有楽町エリアで330・A地区（東京都／村木秀之地区ガバナー）主催の薬物乱用防止大パレードが行われた。創設100周年記念事業として関係省庁の全面的協力を受けて実施し、市民に薬物乱用防止を訴えた（報告／篠順三330・A地区幹事）

薬物乱用防止PR大使の真矢ミキさんに名誉教育講師の認定証を授与

10月29日(土)、当日未明まで降り続いていた雨は奇跡的に降りやみ、330・A地区主催の「ダメ。ゼッタイ。」「NOドラッグ」薬物乱用防止大パレードを待ち望んでいたかのように、銀座の街は静かに朝を迎えた。

日比谷公園小音楽堂では、パレード参加者全員で2日前に薨去(こうきょ)された三笠宮崇仁親王殿下への黙祷を捧げた後、村木地区ガバナーのあいさつを皮切りに式典がスタート。続く「薬物乱用防止教室特別版」には女優の真矢ミキさん、菊川怜さん、河北麻友子さん、リオ五輪競泳女子200メートル平泳ぎ金メダリストの金藤理絵さんが参加した。場所を丸の内仲通りに移した「出発式」では、村木地区ガバナーを中心に、全員で「ダメ。ゼッタイ。」「NOドラッグ」を唱和。事前に、毎日新聞が大々的に「官民挙げ大パレード」と取り上げ、ニッポン放送での告知もあり、沿道にはどんどん人が集まり、最終的には8万人にまで膨れ上がった。

大パレードの隊列は、史上初めて

全国の各地区から参加したメンバーがプラカードを持ってパレード

パレードは警視庁、内閣府、警察庁、厚生労働省、文部科学省、東京都、公益財団法人麻薬・覚せい剤乱用防止センターの全面的協力を受けて実施され、ライオンズ・メンバーの他、警視庁音楽隊、大学生のチアリーディング、小学生のマーチングバンドなどが参加した

築地警察署一日警察署長の河北麻友子さん、リオ五輪競泳金メダリストの金藤理絵さん、真矢ミキさん、丸の内警察署一日警察署長の菊川怜さん

丸の内警察署と築地警察署の二つの管轄をまたいで数寄屋橋交差点を交通規制し、警察車両7台、オープンカー6台、大型バス2台を含めた8梯団。330・A地区は元より日本の25準地区からの参加を含め総勢720人の大パレードは、前代未聞の圧巻的なスケールで東京のど真ん中をジャックした。ライオンズクラブのメンバーたちが、数寄屋橋交差点を曲がって全面規制の外堀通りを悠然と歩いていく姿は、今後も見ることの出来ない、まさに100周年記念事業、レガシーにふさわしい歴史的な景観であった。

またオープンカーから8万人の沿道の観衆の応援に、笑顔で手を振る村木地区ガバナーと、国際理事、各複合地区協議会議長らの様子は、ライオンズクラブの奉仕活動が日本の社会で認められていることを感じる感動的なシーンだった。今回の大パレードは49社のメディアによって取材され、ライオンズクラブへのブランド貢献価値は3億円規模と試算されている。

余談だが、警察によれば薬物探知犬がパレードで1・7キロ歩くのも史上初のことだそうで、薬物探知犬にとっても前代未聞の大パレードだったようだ。

■国際理事
佐藤宜之
（大分）

OSEAL地域のリーダーとして

第55回OSEALフォーラムが11月10～13日、香港において開催された。最終登録者数8617人中、日本からの登録者が1745人だった。今回のフォーラム・テーマは「CELEBRATE THE CHANGE（変化を祝う）」だ。国際協会が100周年を祝い、次の100年に向けて改革を進める中、OSEAL地域において新しい課題を展開・拡大・改革し、それを皆で祝おうと挑戦する香港フォーラム組織委員会の熱意を感じた。

フォーラムの会議は9日のGMT／GLT会議に始まり、山田實紘LCIF理事長が国際第1副会長時に設置し委員長を務めるスタンディング（常任）委員会へと続いた。この委員会はOSEAL所属の元国際会長4人にジュンユル・チョイ国際第3副会長（韓国）を加えた5人で構成され、私を含むOSEALの現職国際理事6人も出席した。フォーラム組織委員会に対して助言や提言を行い、OSEALフォーラムが常に一定の基準を満たし、円滑に国際協会との連携を取り、参加者にとってより有意義な催しとなるよう支援する委員会だ。今回、山田委員長の進行でフォーラムへの提出議案を検討。10日の第2回ステアリング委員会会議、期間中3回開催される複合地区議長と地区ガバナー会議、そして決議委員会を経て、OSEALにとって大切な次のフォーラム決議がなされた。

●開催地の入札制度を2019年フォーラムから導入する

［理由］八つの国と地域によるローテーションで開催地を決定するシステムが続いてきたが、OSEALでは会員の増加が著しく、前述の国以外にも開催を希望する資格のある国や地域が出来た

●17年から10年間の国際理事候補者のローテーション・システムを決定。ただし4年に一度見直す。この中には中国が組み込まれ、17～19年国際理事候補者のうち1人は中国から立候補する

●17年OSEALフォーラムは台湾・台南、18年は中国で開催

●OSEALを代表する国際理事候補者の質を確保するため、全候補の資質を精査検討するための委員会を設立し、17年度から適用。12項目から成る国際理事候補者の資質要件ガイドラインを決定

●修正提案はOSEALスタンディング委員会または協議会議長／単一地区の地区ガバナーからフォーラム組織委員長あてに、少なくともフォーラム開催の1カ月前までに書面で提出する

これら香港フォーラムでの決議事項は、OSEAL地域にとって大きな改革であったと思う。LCIF献金額は七つの会則地域中最多、会員数においてもアメリカ及びその周辺地域を抜き世界一になる可能性もあるOSEALは、世界のライオンズのリーダーとしての自覚を持ち、質の向上を図らねばならない。

また日本人国際理事として一連の会議に参加する機会を得て、OSEAL地域の中で最大の会員数を持つ日本ライオンズが発展していくため、会員がグローバルな感性と視野を持ち、OSEALのリーダーにふさわしい資質を磨いていくことの必要性を強く感じた。

ライオンズ・ニュース・カセット

LIONS NEWS CASSETTE

香港フォーラムで推薦を受けた国際役員候補者

11月10～13日に香港で開かれた第55回東洋・東南アジア・ライオンズ（OSEAL）フォーラムにおいて、OSEAL地域から立候補する2017～19年国際理事候補として、334複合地区の佐藤義雄元地区ガバナー、381地区のアリス・ラウ元地区ガバナー（中国）が推薦された。2017～19年国際理事のOSEAL地域の定員は3人で、残る1人は韓国からの立候補が予定されている。また国際第3副会長候補として、アメリカ・ジョージア州出身のヘインズ・タウンゼンド元国際理事が推薦を受けた。

佐藤義雄元地区ガバナー（長野県・戸倉上山田ライオンズクラブ）は1982年入会、90年度クラブ会長、04年度ゾーン・チェアパーソンを経て、08年度地区ガバナーに就任した。国際理事、国際第3副会長の選挙は2017年6月30日～7月4日にアメリカ・イリノイ州シカゴで開かれる第100回国際大会で行われる。

香港で開催された330・C地区キャビネット会議

11月12日、香港OSEALフォーラムの会場となったアジア・ワールド・エキスポの会議室で、330・C地区（埼玉県／濱野雅司地区ガバナー）のキャビネット会議が開かれた。海外でキャビネット会議を実施するのは異例なこと。15時から通常のキャビネット会議を行い、16時からはキャビネット構成員以外も自由に傍聴出来るオープン・キャビネット会議とした。オープン・キャビネット会議では山田實紘LCIF理事長、ウィンクン・タム元国際会長、ケビン・チェレプ国際本部グローバル開発チーフが講演。傍聴席はほぼ満員の盛況ぶりだった。タム元国際会長は2015年6月に日本GLT主催で開かれた全日本若手会員フォーラムに出席したことなどに触れて、日本の取り組みを評価。過去を振り返るだけでなく、未来に目を向けていくべきだと述べた。山田LCIF理事長は会員の質を上げて、多くの人を入会させることで、ラ

イオンズの活動の幅を更に広げられると述べた。最後に、濱野ガバナーから「海外で開催するという案に、多くの人が協力してくれたことで実現出来た」とキャビネット構成員へのねぎらいの言葉と共に感謝の意が伝えられ、会議が締めくくられた。

330‐A地区LCIFセミナーで山田實紘理事長が講演

11月7日、山田實紘LCIF理事長が講師を務める330‐A地区（東京都／村木秀之地区ガバナー）のLCIFセミナーが、東京都千代田区の憲政記念館で開催された。山田理事長は講演の中で、LCIFへの献金は全て交付金として人道支援に使われており、2007年にイギリスの経済誌『フィナンシャルタイムズ』などによるNGOの信頼度評価で最高の格付けを受けたことや、ビル&メリンダ・ゲイツ財団などと連携するはしかイニシアチブについて説明。また、8月に発生した大地震で深刻な被害を受けたイタリア中部アマトリチャーナでは黄色いベスト姿のライオンズが活動していたこと、熊本地震に対するLCIF交付金は総額約3億5千万円に上ることを報告した。更に、LCIF四大交付金の対象事業の一つであるライオンズクエストの日本における普及事業について、ライオンズの関与をより強めることが望ましいと述べた。

講演後の質疑応答では、参加者から330‐A地区で始まり全国に広まった薬物乱用防止教育認定講師の活動を四大交付金の青少年分野の対象としてほしいとの要望が出され、山田理事長からは既に検討を始めているとの回答があった。

ライオン誌バックナンバーの記事が検索出来るデジタル・アーカイブ

ライオン誌デジタル版（www.thelion-mag.jp）のウェブサイトでは、創刊号1958年7・8月合併号から最新版までを雑誌形式で閲覧出来る「ライオン誌日本語版デジタル・アーカイブ」を公開しており、これらバックナンバーの記事をキーワードで検索することも出来る。所属クラブに関する記事を探したり、特定の分野のアクティビティの情報を集めたりすることが容易に出来るので、ぜひ活用して頂きたい。デジタル・アーカイブはライオン誌デジタル版トップページにある「アーカイブ」のカテゴリーで公開中。

会議録

■**第1回複合地区ライオンズクエスト委員長【ウェブ】連絡会議**（10月14日）①世話人、副世話人の互選②ライオンズクエスト・プログラムの歴史③各地区の現状

■**第4回ライオン誌日本語版委員会**（11月2日）①公式版ライオン誌編集者会議②ライオン誌日本語版の運営③2016年11月号（10月20日見本／9万5600部発行）出来④12月号記事内容の確認⑤2017年1月号以降台割（案）と主要記事予定⑥ライオン誌デジタル化⑦その他

■**第4回複合地区ガバナー協議会議長【ウェブ】連絡会議**（11月3日）①本日の会議進行について②国際理事会報告③第55回OSEALフォーラム（2016年11月10～13日香港）関係④ナレシュ・アガワル国際第1副会長公式訪問（11月）⑤その他⑥ウェブ会議システム（オムニジョイン）見積もりについて⑦各種報告

WHERE THERE'S A NEED THERE'S A LION
SINCE 1917 100

ライオンズの100年の歴史と奉仕活動の足跡を伝え、その真価を物語るストーリーの数々を紹介します。
写真とテキストは100周年ウェブサイト（lions100.lionsclubs.org）でも閲覧出来ます。

白い杖

すばらしいアイデアは、花開くまでに年月を要することがあります。今ではすっかり定着し、失明者にとって不可欠な補助具となっている白い杖もそうでした。

古来、目の不自由な人々は障害物を避けるために杖を持って歩きました。しかし20世紀になって馬車に代わり自動車が登場すると、彼らは新たな脅威に直面します。杖は行く手を確認するには有効でも、運転手に警告するサインとしては役に立たないものでした。

盲目の英国人、ジェームズ・ビッグスは1921年、自分の杖を白く塗ってこの問題に対処しました。その10年後、遠く数千キロも隔たる二つの街で、2人の心優しい人物が交通量の多い街角で失明者が直面する問題の解決に乗り出し、この単純な発明は普及し始めます。一方はフランス・パリ、他方はアメリカ・イリノイ州ピオリアでした。

にぎやかなクールセル大通りに住む裕福なパリジェンヌ、マダム・グィリー・ド・エルブモントは、近くの盲学校に通ってくる目の見えない生徒たちが心配でした。1930年11月、彼女はパリの有力紙に手紙を書き、交通巡査の指揮棒によく似た白い杖を注意喚起に利用することを訴えました。数カ月後には彼女が手配した贈呈式で、フランス大統領が盲目の退役軍人と市民に白い杖を手渡しました。彼女はその後、パリの失明者に5千本余りの白い杖を贈っています。

同じ頃、ピオリア ライオンズクラブのジョージ・A・ボーナム会長が北米に白い杖を紹介し、すぐに数千人から支援が集まりました。その5年前の国際大会でヘレン・ケラーの呼び掛けを受けて以来、ライオンズは熱心に視覚障害者への援助に取り組んでいました。

10月15日の国際白い杖の日、カリフォルニア州ノーウォーク・ライオンズクラブは卓上ディスプレイを使って認識向上を図っている

パリのもう一人と同じように、ライオンボーナムは1930年のある日、ピオリアの繁華街で盲人を見掛けて動き出します。その男性は激しい往来の中、力無く杖で道をたたいていました。その男性の苦境に誰も気付いていないように見えたことが、ライオンボーナムを考え込ませました。答えはやはり白い杖で、目立つように赤いバンドがあしらわれました。ライオンボーナムはそのアイデアをクラブに伝え、会員たちは即座に賛意を示します。彼らは失明者のために杖を白く塗り、市の当局者に手紙を書きました。その年12月、ピオリア市議会はアメリカ初の「白い杖安全法」を可決し、目の不自由な市民が白い杖を持っている場合には、通行権その他の保護を与えることにしました。

1931年にカナダ・トロントで開かれた国際大会に集まったライオンたちは白い杖プログラムに関する詳しい説明を聞き、ピオリア条例のコピーを受け取って持ち帰りました。大規模な認識向上・支援キャンペーンも奏功し、1956年までにアメリカ全州で白い杖安全法が施行されました。

白い杖は、生涯それに頼って歩かざるを得ない人々の独立、自信、技能のシンボルとなっています。10月15日の国際白い杖の日が来ると、多くのライオンズが白い杖のラペルピンを身に着けて、私たちが共に歩いてきた道程の長さを思い出させてくれます。

ーダーとライオンズクラブ国際本部との間の意思疎通のために地元で国際協会外の翻訳サービスを利用できる者でなければならないと明確化。

会員増強委員会

1. 退役軍人向けプログラムを全会則地域に拡大し2018年6月30日まで延長するとともに、現役の軍人も対象に含めることを承認。
2. チャーター費の支払いをチャーター申請書提出後、ただしチャーター承認前に行うことができるよう、理事会方針を改定。
3. 2018年1月1日より新クラブチャーター申請書はすべてMyLCIを通じて提出されなければならないという文言を加えることにより、理事会方針を改定。
4. 新会員のうち75%は複合地区内で居住、または就業している者であることを条件とする方針に沿っていない場合でも、適切であれば会員増強委員会が検討し承認できるよう、理事会方針を改定。
5. 1会計年度中に10以上の新クラブを結成する地区についての手順に関する理事会方針を次のように改正。チャーター申請書を承認する地区ガバナーのほかに、第一副地区ガバナー、第二副地区ガバナー、あるいはGMTエリアリーダー/特別エリア・アドバイザーのいずれかが承認しなければならない。これまで通り、チャーター承認に先立ち国際会費の半額の支払いが必要となる。

マーケティング・コミュニケーション委員会

1. 申請のあったすべての100周年記念補助金を承認。
2. 4カ年デジタルマーケティング計画を承認し、予算と収支予想をその計画に応じて調整。
3. 委員会名が「マーケティング・コミュニケーション委員会」と正確に表示されるよう、理事会方針書を改訂。
4. ライオン誌の編集長は「マーケティング及び会員チーフ」であることが反映されるよう、理事会方針書を改訂。

奉仕事業委員会

1. 2017年7月1日～2018年6月30日の100周年記念最終年度を実施期間とする五つ目の奉仕キャンペーン分野として、「糖尿病」を100周年記念奉仕チャレンジに加えることを承認。
2. 2015～2016年度ベスト・レオ賞を、さらに二人のレオに授与することを承認。
3. 理事会方針書第22章を改定し、標準版レオクラブ会則に記載されているレオ会長の任期にかかわる文言を更新。

※上記決議事項のいずれかに関する詳細は、協会ウェブサイトでご覧いただくか、国際本部（電話：630-571-5466）にお問い合わせください。

国際大会開催予定

第100回＝17年6月30日～7月4日／アメリカ・イリノイ州シカゴ
第101回＝18年6月29日～7月3日／アメリカ・ネバダ州ラスベガス
第102回＝19年7月5日～9日／イタリア・ミラノ
第103回＝20年6月26日～30日／シンガポール
第104回＝21年6月25日～29日／カナダ・モントリオール

解散クラブ

11月＝栃木県・那須ハーモニーシニア

訃報

■献眼者

大砂文雄（長崎県・諫早中央）

◎ライオンとしての多大な功績をたたえ、ご冥福をお祈り申し上げます。

国際理事会決議事項要約

アメリカ・テネシー州ナッシュビル
2016年10月13～16日

会則及び付則委員会

1. 300-C1地区（MD300台湾）の地区ガバナーがタム元国際会長と協力し、第一副地区ガバナーとして任命されるべきライオンを、公平かつ矛盾のない方法で推薦することを指示する決議を承認。さらに理事会は、同地区が理事会の指示に従うことができない場合には、会則及び付則委員会がさらなる処置を講じることを承認。
2. 内容を明確にすることを目的に、理事会方針書第7章の標準版地区会則及び付則を改訂。
3. 内容を明確にすることを目的に、理事会方針書第7章の標準版地区会則及び付則を改訂し、不要な重複箇所を削除。
4. 理事会方針書第15章の中立オブザーバーに関する方針を改訂し、中立オブザーバーを誰が任命するかについて明確化。
5. 大会交換ピンが「収集品」とみなされる時期に関して、理事会方針書第15章の商標に関する方針を改定。
6. 公式通達を行う時期を、改正案通知の要件と整合させるための国際付則改正案を2017年国際大会に提出する決議を採択。
7. 近年国際会則に加えられた改正を反映させるため、米国から選出される理事の数に関わる国際付則改正案を、2017年国際大会に提出する決議を採択。

大会委員会

1. 2017年シカゴ国際大会の日程を改定。
2. シカゴ国際大会における、他の経費支払いを受けない資格証明委員会被任命者のための日当金額、および地区ガバナーエレクトと地区ガバナーエレクト・セミナー講師（グループリーダー）、および国際本部スタッフの日当金額を決定。
3. 大会における選挙手順を、資格証明と投票を一つにまとめるものに改定。
4. 推薦条件に対する例外を認められるよう入札方針を改定。

地区及びクラブ・サービス委員会

1. 2016～2017年度のコーディネーター・ライオンを承認。
2. 105複合地区（イギリス諸島及びアイルランド）および323複合地区（インド）からの地区再編成案を承認。これらの再編成は2017年国際大会の閉会時より発効する。また、24複合地区（バージニア）、32複合地区（サウスカロライナ）、43複合地区（ケンタッキー）からの地区再編成案を承認。これらの再編成は2018年国際大会閉会時より発効する。
3. 標準版クラブ会則及び付則の別紙C「ライオンズクラブの標準組織機構」にクラブLCIFコーディネーターを加える改正を承認。
4. LCIF理事長、LCIF理事、ライオンズクラブ国際協会理事会アポインティの名札のデザインを承認。
5. 簡体字中国語を国際協会の公式言語として承認。
6. 国際大会開催地での地区ガバナーエレクト・セミナー出席のために地区ガバナーエレクトが自動車を利用した場合の経費に関して方針を明確化。

財務及び本部運営委員会

1. 赤字となる2017会計年度の第1四半期の収支見通しを承認。
2. 理事会方針書を改正し、会長の任命を受けた者がフォーラム計画委員会会議への旅費の払い戻しを受けられる回数をこれまでの1回から最高2回までに増やすことを承認。

リーダーシップ開発委員会

1. 韓国において計画・実施・資金調達が行われる「芽生えるライオンズ・リーダーシップ研究会（ELLI）」に対するカリキュラム支援を承認。ただし、参加申し込みがあり、翻訳を含めた研究会プログラムの費用に対する資金が完全に現地で調達されることが条件となる。講師は国際協会からの承認を必要とし、先の同種のパイロットプログラム同様、このプロセスを評価する代表者は国際協会が手配する。
2. 2017年地区ガバナーエレクト・セミナーのカリキュラム計画、日程、グループリーダー陣を承認。
3. 試験的に5年間、地区ガバナーエレクト・セミナーを国際本部付近の固定の場所において年度の早い時期に開催することを承認。試験的に行われるこの計画は、2019年の地区ガバナーエレクト・セミナーより実施する。
4. 理事会方針書第14章第D項10.eを改訂し、地区ガバナーエレクト・セミナーのグループリーダーは英語を話し、かつ理解できる者、もしくは、グループリ

南スーダンでの識字率向上活動

度重なる内戦により荒廃した南スーダンでは、多くの女性や少女が数キロ先の井戸まで歩いて水くみに通う。ようやく井戸にたどり着いても、水差しを満杯にするためには更に数時間行列に並ばなければならない。生きていくために欠かせないこの作業は、多くの女性や少女から教育を受ける機会を奪っていた。

南スーダンの女性の識字率は世界で最も低い。一方、妊産婦死亡率は世界で最も高い水準に達する。ユニセフの調査によると、母親の教育水準と子どもの健康には高い関連性があるという報告が出ている。南スーダンでは、若年での妊娠で妊娠合併症を引き起こし死亡する少女の数が、初等教育を修了する数よりも多いという。また、10人に1人の子どもが5歳になる前に命を落とす。

LATWは井戸へ水をくみに来た女性や少女たちに読み書きを教える

ライオンズクラブとライオンズクラブ国際財団（LCIF）は、女性の識字率向上に取り組む非営利団体LATWを支援、四大交付金を拠出し、その独創的な活動をサポートしている。LATWは水くみの長い行列に並んでいる女性や少女に対し、その時間を利用して読み書きを教える。ここで読み書きを教わった人たちは、今度は家に帰って家族に読み書きを教えるという仕組みだ。また、地元の教育者にトレーニングを実施し指導者として雇うことで、このプログラムの継続・成長に取り組んでいる。

アメリカで創設されたLATWは、２００８年から南スーダンの北バハル・アル・ガザール州で活動している。州都アウェルでは、識字率の急速な向上が求められており、LCIFの交付金がLATWの活動を大いにサポートしている。

LATWは毎週千人以上の女性や少女に対して読み書き教室を実施。一方、将来の指導者を育成するために、地元の警察官や医療従業者を対象にした講座も提供している。

南スーダンでのこのチャレンジは、大きな成果をもたらすはずだ。「世界で最も失敗した国家」と評される南スーダンでは、何年も続く内戦により地域のインフラは壊滅的に破壊され、ごくわずかな地域にのみ、水道、電気、医療施設、学校や舗装道路など日常生活に不可欠な環境が残されている。２０１１年に分離独立を果たし、15年8月には南スーダン和平協定を締結、13年12月から大勢の犠牲者を出し続けてきた内戦は終結するかに見えた。しかし、和平協定以降の現在も、多くの地域で紛争が絶えない。

この惨状において、ライオンズの活動はより大きな意味を持ち、重大な役割を担っていく。識字率の向上は経済的な成長をもたらし、民主主義の礎を築く。読み書きの出来る家族はより安全で健康的な生活を送れるようになり、周囲からの抑圧に耐え、やがて地域の人々を支える力へと成長していく。

LCIF FILE

LCIF Development Update

■LCIF献金現況報告

献金額単位：ドル　　2016年9月30日現在

地区	献金額	1人当たり献金額	1人当たり前年度献金額	MJF口数	クラブ参加率
330-A	287,335	63	38	227	41.5%
330-B	379,310	93	118	256	83.1%
330-C	90,335	55	51	70	54.1%
330複合	756,980	73	71	553	59.2%
331-A	81,289	35	121	70	35.6%
331-B	44,567	19	56	33	32.9%
331-C	52,002	32	56	37	49.0%
331複合	177,858	29	80	140	37.8%
332-A	59,800	33	33	44	62.5%
332-B	29,189	18	70	25	32.1%
332-C	91,084	66	79	80	56.7%
332-D	129,798	65	104	124	72.2%
332-E	37,605	22	41	34	28.6%
332-F	20,119	19	59	13	15.9%
332複合	367,595	39	62	320	47.8%
333-A	91,880	35	50	76	35.1%
333-B	56,520	48	92	52	57.1%
333-C	98,952	33	78	84	40.6%
333-D	81,586	46	109	70	66.7%
333-E	145,513	49	85	126	41.5%
333複合	474,451	41	80	408	45.4%
334-A	521,383	114	283	516	50.0%
334-B	132,000	43	89	118	59.0%
334-C	88,746	30	97	77	52.5%
334-D	299,572	79	97	274	71.1%
334-E	86,260	46	124	78	40.4%
334複合	1,127,961	69	150	1,063	55.7%
335-A	49,750	26	60	43	25.9%
335-B	347,662	68	120	290	63.3%
335-C	208,892	56	103	159	67.8%
335-D	65,188	38	120	59	78.1%
335複合	671,492	54	105	551	59.7%
336-A	213,719	42	63	185	53.1%
336-B	91,914	32	66	40	44.2%
336-C	168,551	53	62	127	67.7%
336-D	68,642	23	69	43	49.5%
336複合	542,826	38	64	395	53.6%
337-A	166,110	38	115	140	54.3%
337-B	83,920	38	60	76	34.8%
337-C	148,000	54	124	120	53.8%
337-D	43,269	19	55	36	31.6%
337-E	35,935	23	55	26	31.0%
337複合	477,234	37	90	398	43.1%
全国	4,596,396	49	91.6	3,828	51.4%

LCIF Development Update

支援を待ち望んでいる人たちのために

新年あけましておめでとうございます。昨年はLCIFに多大なご支援を頂き、誠にありがとうございました。今年もよろしくお願い申し上げます。今回はLCIFを正しくご理解頂くための基本について書かせて頂きます。

我々は「ウィ・サーブ」をモットーとして、より良い地域や世界を築くために活動する奉仕団体であることは、今更言うまでもありません。その会員として奉仕をするために、我々はドネーションをします。なぜなら、納入している会費は運営費であって事業費（活動費）ではなく、奉仕をするための資金にはドネーションが必要になるからです。

同じように、我々は国際協会の一員として国際会費を払っていますが、これも運営費であって事業費ではありません。そこで国際的に奉仕活動をするため、あるいは1クラブでは出来ない大きな事業を支援するために事業費を集め、一方では交付金として、その資金を適正に配分する仕事が必要になります。

この仕事をしているのがLCIFです。LCIFは毎年4千万ドルから5千万ドルの資金を交付し、世界の災害支援や視力保護、青少年育成、あるいは開発途上国での井戸掘りや学校建設など人道的奉仕活動などを展開しています。世界的に見れば、頻繁に起こる大災害や、飢餓、紛争、環境汚染など、まだまだライオンズからの支援を待ち望んでいる人々は数多くいます。その人たちのために、ぜひともLCIFの意義をご理解頂き、ご協力して頂けることを期待しています。（335複合地区LCIFコーディネーター／北畑英樹）

獅子吼

人は言葉で輝く

菊地　伸治（宮城県・仙台青葉）

人の心を表現する手段の一つが、「言葉使い」とも言われます。過日の「河北新報」に北原白秋の詩が載っており、共感しました。

「ひとつのことば」
ひとつのことばでけんかして
ひとつのことばでなかなおり
ひとつのことばで頭が下がり
ひとつのことばで心が痛む
ひとつのことばで楽しく笑い
ひとつのことばで泣かされる（略）

人は何をするにしても「言葉」を使って生きています。生きるコミュニケーション、意思伝達の大切な手段。言葉は日常生活を円滑にする必須要件です。

情報通信技術がますます進展する時代です。カタカナ社会、ネット社会、膨大な情報が氾濫（はんらん）する中、画面では本当にその人なのかも分かりません。だからこそ、正確に意思を伝達するためには、携帯電話や電子メールばかりでなく「自分の言葉」で明確に伝えることを心掛けねばなりません。言葉を正しく、上手に使う。その努力を続けていきたいものです。

言葉使いは微妙なニュアンスで受け取り方、受け取られ方が変わってきます。日常生活でもよくあることですが、何気ない一言で励まされたり、傷付けられたりします。ちょっとした優しい言葉で、人生が明るく変わることがあります。反対に、たった一言が相手の心に大きな傷を残し、取り返しがつかなくなる場合もあります。言葉は魔物であり、生き物であるとも言われ、幸せを運ぶ「羽」にも、鋭利な「刀」にもなります。時には互いの間柄如何（いかん）で「丸く」もなれば「尖り（とが）」もします。

寸暇を惜しんで働くことが美徳とされる世の中です。仕事が出来れば尊敬の目で見られます。多忙な社会生活の中には、どんな時でも切り札として使えて、人間関係の潤滑油となっている便利な言葉があります。「忙しい」という言葉です。相手の都合を聞く場合、「今お忙しいでしょうか」。何か失礼をしてしまった時には「忙しかったものですから」などと使います。誰しも日常経験していることでしょう。かく言う私は、この頃は諸届の職業欄に「会社役員」とだけ書くことが多くなりました。名刺も「取締役会長」。現役を離れました、と聞かれもしないことを肩書きにしております。

さて、上手な話し方、輝く言葉には、次のような条件があると考えます。

- 準備が肝心です。自分が話したいことをテーマとして、短く先に述べ、説明は後に回します
- 具体的な表現力、五感に訴え、情景が浮かぶ言葉の引き出しを多くします
- 声の表情をしっかりすること。声、抑揚、強弱、間が大切です

●獅子吼（ししく）
①仏が説法するのを、獅子が吼えて百獣を恐れさせる威力に例えていう語。
②大いに熱弁をふるうこと。（広辞苑）

●投稿要領：
会員及び家族によるエッセー、提言など。1,600字程度

「言葉の力」から学びが始まります。短く、簡潔に、本質を突くことが求められます。一方、口下手な人は「聞く力」を養い、相手の話に表情豊かに「相づち」を打つことです。

総合的な力を持つ言葉は、常に品位を保ち、動揺せず、多様な情報を正しく把握し、先を読む姿勢を持ち続けることが基本となります。

尊敬される言葉は、難しいことを易しく、易しいことを深く、広く、面白くすることです。心は誰にも見えないけれど、「言葉」になって初めて輝きます。

（元国際理事／67年入会／84歳）

薬物乱用防止教室・初講師の試練

三浦　昭生（北海道・恵庭）

それはいきなりの出来事だった。

「三浦ライオン、次年度開催される薬物乱用防止教室の講師お願いね！　認定講師はみんなその日は都合が付かなくて！」

たしか年度終了間近の例会後、二次会の場で、次年度幹事予定者から言われたと思う。酔って気が大きくなっていたのに加え、次年度とはかなり先のことだと思い、二つ返事で承諾した。しかしふたを開けてみると、開催日は新年度になったばかりの7月12日。それに気付いたのは約1カ月前のことだった。

さあ、どうしよう!?　ライオンズに入会し、講義を受けて薬物乱用防止教育講師認定証を頂いたものの、実際には講師の経験は皆無。俗に言うペーパードライバーだ。認定証を頂いても一度も講師をしたことが無いライオンが意外と多いと聞いていた。おまけに自分は薬物乱用防止教室に参加（傍観者と言った方が正しい）したのも3回ほど。ああ……もっと真剣に聞いておけばよかった！　悔やんでも後の祭り。それから、クラブに恥をかかせてはならないと、開催に向けて資料集めと苦手な勉強が始まった。

まずは薬物乱用防止教育認定講師養成講座の資料を全て見直し、クラブに保管されていた子どもたちに見せる予定のＤＶＤ（過去の分も全て）を鑑賞。公益財団法人麻薬・覚せい剤乱用防止センターのホームページに出ている全ての資料、インターネットで検索して出てくる小中学生を対象にしたあらゆる薬物関連資料、そしてもちろん、他クラブが開催した薬物乱用防止教室の様子・資料など、個々のクラブのホームページを猛閲覧。また地元の警察署に行き、関連資料の提供を受けるなど、講師として子どもたちに間違ったことを発信しないように、薬物について徹底的に資料を集め勉強をした。

おかげさまで小学生を対象にした講話のための素材がたくさん集まった。その中から、必ず伝えなければならないもの、リアルタイムで小学生が関わった事案、面白くそして分かりやすく話せる資料など、自分なりに精査していった。

そしていよいよ、講師として子どもたちに話し掛けるための文面作り。これが意外と難しい。昔ＰＴＡ会長をしていた時は子どもたちにはあいさつさえすればよかったが、授業となれば話は別。ＩＣレコーダーや携帯のビデオ機能を使って、何度も自分の説明をチェックし手直しを続けた。結果、当日は頭が真っ白になった時に備えカンペを片手に、何とか無事に講義を終える

ことが出来た。
　達成感に浸っていると、意に反して質問コーナーで次から次へと子どもたちから質問が飛ぶ。「アヘン戦争ってどういう戦争ですか?」「この辺で大麻草って採れるのですか?」などなど……。一難去ってまた一難。次回からは子どもたちからのどんな質問にも答えられるよう、もっと勉強しないといけないと肝に銘じる自分だった。
　実はこの日、先輩講師がひそかに出席されていた。どうやら新人を育てるために、「欠席」と嘘をついていたようだ。貴重な機会を与えてくれた先輩ライオンに感謝すると共に、今後もますます分かりやすく楽しい授業が出来るよう、探究していきたい。
（PR情報委員長／14年入会／51歳）

100周年記念合同アクティビティ

本田　洋（鹿児島さつま）

　台風18号が西にそれて過ぎていった10月5日。まだ吹き返しの風の中、数人のゾーン・チェアパーソンたちが、8日のライオンズ・デーに開催する「ライオンズこども食堂」の会場で、100周年記念事業ののぼりを立てていました。
　日本ライオンズの草創期、先人たちが鹿児島市の中心を流れる甲突川（こうつきがわ）河畔にライオン像を建立し、噴水のある憩いの場「ライオンズ広場」を作り上げました。現在も市民に親しまれ、薩摩の両雄・西郷隆盛、大久保利通の誕生地にほど近く多くの観光客が訪れます。
　ライオンズクラブ創設100周年を迎えるに当たり、337-D地区鹿児島リジョン（鹿児島県）内55クラブが初めて合同で取り組むアクティビティをぜひこの広場で行おうと、今期最初のゾーン・チェアパーソン懇談会にて全員一致で決定。アクティビティの中心は「こども食堂」としました。『ライオン誌』4月号でも特集されたように、子どもの貧困は大変深刻な状況にあります。私たち自身が地域の実態を把握することから始めました。
　まずライオンズクエスト実践校の校長にお話を伺いました。校長によると、子どもたちの食事環境は非常に厳しく、学校給食でしか十分な食事を取れない子どもも少なくないそうです。
　更に鹿児島市のこども福祉課に相談すると、市内には既にこども食堂があり、複数の立ち上げも検討されている状況で、大変重要な問題と認識しているとのことでした。ここで齋藤美保子鹿児島大学准教授による取り組みを紹介して頂き、視察。改めて、ライオンズが子どもたちを支援する枠組みを作りたいという思いを強くしたのでした。
　そこで今回の記念事業を大きな取り組みの発端と位置づけ、「ライオンズこども給食」実現に向け動き出しました。
　8日、秋とはいえ南国鹿児島ではまだ暑い中、たくさんのメンバーが朝から動き出しました。まずは清掃。並行して炊飯器やガス台を搬入。久木田学園レオクラブのメンバーも多数参加する中、炊事場やイベントスペースが形作られていきました。
　その後、鹿児島南洲ライオンズクラブさくら支部と鹿児島さつまライオンズクラブ錦江支部のメンバーを中心に、食事の準備。おにぎりと豚汁、カレーライスにオムライス、おだんごなど、子どもたちが喜ぶものが並びました。食材や食品の多くは、メンバーの好意で安価

あるいは無償で提供されたものです。
イベントスペースではヨーヨー釣やスーパーボールすくい、バルーンアートなどを実施。メンバーが持ち寄った子ども服やぬいぐるみなどもプレゼントしました。ステージでは音楽ショーやバンド演奏が会場を盛り上げ、鹿児島城山ひだまりレオ(クラブ)によるクイズ大会も催されました。これらは、子どもたちが集まりやすい雰囲気作りを目指した、各ライオンズクラブのさまざまな努力の形です。会場では多くのクラブが、来場者にパネル展示で活動内容を伝えていました。更に前出の齋藤准教授も、こども食堂懇話コーディネーターとして参加してくださいました。
努力のかいあって、500人を超える子どもが参加、大人を含めると千人近くが来場してくれました。新聞記事やテレビでも取り上げられて、ライオンズクラブ創設100周年記念合同アクティビティを大いにPRすることが出来ました。
今回事業の中心となったのは鹿児島市内13クラブでしたが、今後は鹿児島リジョン全体の取り組みとして進化させていくことが重要です。次代を担う子どもたちの健やかな成長に、ライオンズの奉仕が真に役立つために、多くの方々と連携しながらこの活動の更なる向上を目指していきたいと考えます。

（鹿児島リジョン第3ゾーンゾーン・チェアパーソン／03年入会／57歳）

LCIFセミナーに参加して

浅田　智美（大阪サウス）

2016年10月24日、ホテル日航大阪で開催された335‐B地区主催の第4回LCIFセミナーに参加致しました。351人ものメンバーの皆様が貴重な時間を割いて集まり、盛大な会となりました。
開会あいさつで白井忠雄地区LCIF委員長から、LCIFが世界第一位の非政府組織という評価を受けた所以(ゆえん)について、また東日本大震災や熊本地震といった災害時には、LCIFから多額の交付金が拠出され、地区やクラブが被災地を支援するのに役立てられるというお話がありました。
川野浩史地区ガバナー、柿原勝彦第1副地区ガバナー、元地区ガバナーでもある北畑英樹335複合地区LCIFコーディネーターは、LCIF交付金の有効な使い方、交付金申請方法などの講義をされ、LCIFへの理解を深め、より一層の協力をと求められました。
夏有民地区LCIFコーディネーターからは、40口のMJF献金をなさった(ライオン)岡本昭（大阪天王寺ライオンズ(クラブ)）が紹介されました。現在(ライオン)岡本の累進MJFのトータルは92口。献金額が10万(ドル)を超えた方は、人道支援パートナーとして国際本部の壁面に名前が刻印されるそうです。
MJF献金の分割払いについても説

明がありました。一例として1年に24回開催している例会時に毎回千円を積み立てて献金した場合、1年で2万4千円となり5年でMJF千ドル献金が出来ることになります。今期からは献金会員献金(20ドル、50ドル、100ドル)もMJFとして累積されるようになったそうです。支払いは現金だけでなく、ビザ、マスター、アメックス、ダイナースの4種類のクレジットカードが使用出来るとのことでした。

榎本舜治LCIFエリア・コーディネーター(西日本/元334・A地区ガバナー)からは、LCIFに対する日本ライオンズの深い理解と多大なる協力に対しお礼が述べられました。更にスクリーンに映像を映しながら、「慈善団体の格付けを行うチャリティー・ナビゲーターという組織からも高い評価を得ているLCIFは信用・安心出来る献金先である」とお話しになりました。企業、個人でのMJF献金の経理上の処理についての説明、また一般援助、国際援助、緊急援助、四大、大災害、用途指定、視力ファーストの各交付金、新たに設定された地域復興、防災準備両交付金についてもご教示頂きました。

LCIFは、単一クラブでは出来ない大規模な人道主義的奉仕事業に対し交付金を拠出することで、世界中のライオンズクラブの活動を援助しています。青少年育成、災害援助、人道的奉仕、環境保全、学校建設、医療奉仕など、さまざまな活動を実現させる、効率的なシステムです。

質疑応答の場面では、当地区でマッチング資金として交付金を得て実施した、学校建設や介護施設の送迎車購入などの事業が紹介され、大変役に立っていることが実感出来ました。

閉会式では吉村弘吉第2副地区ガバナーから、「LCIFがクラブを支え、クラブがLCIFを支える、この相互関係を更に強化していきましょう」という呼び掛けがありました。

講師陣の大変熱心で詳しい講義を通してLICFについてよく理解することが出来、とても有意義で勉強になりました。関係者の皆様、ほんとうにありがとうございました。

(335・B地区キャビネット委員/09年入会)

宿場町開設から400年で市に

内ヶ崎 末雄(宮城県・富谷)

富谷ライオンズクラブの活動拠点富谷は、2016年の国勢調査で人口5万人が確定し、10月10日、市制に移行しました。宮城県で14番目、東北で77番目、全国では791番目の市です。若生裕俊初代市長は当クラブ・メンバーです。

富谷市は宮城県のほぼ真ん中、仙台市の北隣に位置するベッドタウンです。国道4号線を車で10分も走れば通過出来てしまう、小さな市です。

1618(元和4)年、伊達正宗の命で富谷新町という宿駅が置かれました。当時の戸主は13人。1889(明治22)年の市町村制の実施で11カ村が合併して富谷村が誕生、人口3785人。1963(昭和38)年に町制施行、人口5091人。昭和、平成の大合併では合併せず現在に至り、面積は明治時代のままで、人口だけが50年で10倍に増えたことになります。

富谷の生い立ちをもう少し説明します。宿場、富谷新町の検断に任命され、本陣を引き受けたのが内ヶ崎筑後という人です。この地方を支配し、正宗に

滅ぼされた黒川氏の家老で、帰農していたところを正宗に召し出されました。後に織部と改名します。織部と言えば、安土・桃山、江戸前期の茶人で千利休の次代の名人、古田織部が思い当たります。秀吉の時代、古田織部と正宗は同じ京都伏見に住み、共に小田原征伐にも従軍しています。正宗の茶の師匠が古田織部。正宗の統べた仙台・若林城近くに茶畑がありました。今でも地名として残っています。富谷も江戸時代、茶の産地として知られ、奥道中歌（おくどうちゅううた）に「（略）富谷茶飲んで味は吉岡」と歌われています（富谷の北隣吉岡宿と「味は良い」を掛けた）。吉岡は正宗の三男・宗清が城を構えた所で、映画『殿、利息でござる』の舞台にもなりました。富谷には昭和40年代頃まで茶畑があったようですが、今では痕跡を残すのみです。私は正宗と内ヶ崎織部の接点は、お茶の道と思っています。

1661年、内ヶ崎酒造店が創業しました。宮城県内最古の蔵元で、今でも一族で経営しています。内ヶ崎家には富谷宿を利用した大名、松前藩や南部藩、一ノ関藩など、9枚の関札が保存されています。

富谷の人口が増えたのは仙台に隣接するという地の利に加え、仙台市地下鉄南北線の開業が大きく寄与しています。その上、富谷は丘陵地帯で、住宅地として開発しやすいという利点がありました。災害に見舞われることもほとんど無く、環境に恵まれています。市は「住みたくなるまち日本一」を目標に掲げています。富谷は今では茶に代わりブルーベリーの産地として知られています。また、マーチングの町でもあります。「とみやマーチングエコーズ」は毎年、埼玉スーパーアリーナで開催される全国大会に出場しています。

富谷は人口が増えてもサラリーマンとリタイア組がほとんどで、自営業者が少なく、なかなかクラブの会員増に結び付きません。当クラブは結成20年にも満たない若いクラブですが、市制移行を機に会員増強に努力したいと思っています。11月末には地元で活躍中のタレントを呼んで、イベントを開催します。

（前会長／04年入会／79歳）

表紙の背景

影向のマツ

東京都江戸川区

影向（ようごう）のマツは、東京都江戸川区東小岩の善養寺境内にあるクロマツで、樹齢６００年以上と言われる。「影向」とは、神仏がこの世に現れた姿のこと。枝の長さは東西約31メートル、南北約28メートルに及び、繁茂面積８００平方メートル以上は日本一とされ、２０１１年に国の天然記念物に指定された。

実はこの影向のマツ、香川県志度町（現さぬき市）にあった岡野松と「日本一争い」を演じたことがある。

１９７０年代後半、善養寺の門前に立っていた「日本一」という看板を見た人が、「私の出身地、香川県志度町にある岡野松こそ日本一」と言ってきたのが事の発端だった。これがマスコミでも紹介され、日本一論争は1年余りも続く。その決着を見たのは１９８０年の5月になってから。

善養寺で大相撲の行司の法要が執り行われた際、参列した志度町出身の行司と住職が松をめぐって口論。見かねた立行司の木村庄之助が間に入り、「どちらも日本一につき、双方引き分け」と差配した。地元小岩出身で、同席していた日本相撲協会の春日野理事長も「双方を東西の横綱に推挙する」と庄之助の差配を後押し。この粋な計らいで、二本の松は東西の横綱松として知られることとなった。岡野松は残念ながら92年に枯死、今では影向のマツが一人横綱として、日本一の名松と言われている。

1年中葉を落とさない松は、永遠の命の象徴として神様が宿るとされる。また松は「祀（まつ）る」につながることから、おめでたい木として、正月の門松に飾る習慣となっている。

※ＪＲ総武線小岩駅から善養寺まで歩いて約20分。

ふるさと探訪

鹿児島県霧島市

取材／河村智子　写真／田中勝明

大地の躍動を感じさせる山々に抱かれ神話と古代史が息づく場所

うっそうとした木々に囲まれた霧島神宮の三の鳥居

霧島
KIRISHIMA

神話の舞台にある二つの神宮

霧島市中心部に近い城山公園の山上からは、北に霧島連山、南には錦江湾（鹿児島湾）に浮かぶ桜島の姿が見える。どちらも今なお活動を続ける活火山だ。霧島市には「神宮」の社号を持つ神社が二社あり、霧島神宮は霧島連山の高千穂峰を背に、もう一つの鹿児島神宮は桜島を真正面に望むようにして建っている。

高千穂峰は天孫降臨神話の地。霧島神宮は、地上に降りた天照大神の孫、瓊瓊杵尊を主祭神にまつる。高千穂峰は古来修験の地でもあり、6世紀には社殿が築かれたと言われる。社殿は噴火の度に移され、現在地には500年ほど前に遷座。古くから薩摩を根拠地とする島津家の崇敬を集め、現在の社殿は1715（正徳5）年、島津吉貴が寄進した。その拝殿へ、禰宜の赤﨑大和さん（霧島ライオンズクラブ）の案内で上がった。

「島津家が寄贈された社の特徴の一つが、本殿の手前にある龍の柱です。本堂の外陣には貘や麒麟など想像上の動物の彫刻が施され、内陣の壁や天井も彫刻や絵画で飾られています。島津家は鎖国の時代にも大陸と貿易をしていたので、絵画には大陸の風物が描かれています」

極彩色の龍が巻き付いた柱から天井へと目をやると、年月を経て色あせた草花図が見えた。「鹿児島神宮では奇麗に残っていますよ」と、赤﨑さんが教えてくれた。

高千穂峰の麓で深い緑に囲まれた霧島神宮から天降川沿いに車を走らせること約40分。鹿児島神宮は錦江湾へ注ぐ天降川河口にほど近い隼人町にある。祭神は、瓊瓊杵尊の子で山幸彦と呼ばれる彦火火出見尊だ。

「ここは古代、隼人族が住んでいた場所で、その先祖と言われるのが山幸彦の兄、海幸彦です。海幸山幸の神話は大和族が隼人族を征服したことを表し、大和族すなわち宇佐八幡がこの地にやってきたと言われます。

鹿児島県霧島市

2005年に国分市と姶良郡溝辺町、横川町、牧園町、霧島町、隼人町、福山町が合併し、県内で2番目に人口の多い市となった。北に韓国岳（1700㍍）を最高峰とする霧島連山、南に桜島を望み、霧島温泉郷、妙見温泉などの温泉に恵まれている。天孫降臨神話の舞台であると共に、約9500年前の集落跡が残る上野原遺跡や古代の隼人族にまつわる史跡など、神話と歴史に彩られた地でもある。市内には鹿児島空港があり、九州自動車道の開通を機に国分隼人テクノポリスの指定を受けたことでソニーや京セラなどの企業が進出してハイテク産業も盛ん。

面積／603・18平方㌔　人口／12万6636人（2016年11月1日現在）

【交通アクセス】

市内にJR日豊本線と肥薩線が通り、国分駅、隼人駅など11の駅がある。鹿児島中央駅から国分駅まで特急で約36分

九州自動車道、東九州自動車道が通る。鹿児島空港溝辺ICまで鹿児島市から約40分

中央手前から勅使殿、拝殿、本殿の屋根が連なる霧島神宮の社殿。その前に並ぶ門守神社は「門の神様で、神様を守るいわばガードマン」と赤﨑さん。この門守神社があるのも島津氏が寄贈した社の特徴だ

❶建設当時の色彩を残す鹿児島神宮拝殿の天井
❷幼い頃、鯛車を引いて遊んでいたという花見さん。毎年、地元小学校の子どもたちに玩具の製作を教えている
❸工房みやじでは鯛車や初午祭で鈴掛馬に飾る初鼓、香箱など鹿児島神宮に伝わる信仰玩具を製作（Tel.0995-42-2832）

ここにはその八幡様もおまつりしていて、正八幡宮と呼ばれた時代が千年以上の長きにわたりました」

権禰宜の伊賀昇三さん（国分隼人ライオンズクラブ）が言うように、堂々とした勅使殿に「正八幡宮」の扁額があった。社殿は1756（宝暦6）年、島津重年の寄進で造営され、本殿前に霧島神宮と同じく龍の彫刻を施した柱がある。拝殿の天井に描かれた240枚の草花図の中にはバナナなど日本にない草花もあり、島津家の南蛮貿易の影響がうかがえる。

拝殿の片隅に、赤魚をかたどった木製の玩具があった。海幸山幸の神話にちなむ鯛車だ。神話では山幸彦が海幸彦から借りた釣り針を無くし、海神の助けを借りて鯛の喉から見つけ出す。色鮮やかでどこか愛嬌のある鯛は、形を切り出すところから彩色まで全て手作業だ。鯛に付いた車輪は前輪がやや小さめに出来ている。「神様の前で頭を低くしているんです」と話すのは、工房みやじ4代目の花見ユリ子さん。名人で知られた父の宮路武二さんの仕事ぶりを見て育った。現在は娘2人の手を借りながら、鯛車を始めとする9種類の玩具を作り、鹿児島神宮に納めている。素朴な玩具の数々には、手仕事の温もりが感じられる。

江戸時代から続く露天仕込みの黒酢

霧島市国分から国道220号を桜島方面へ向かう途中に、亀割峠という峠がある。峠の先にある旧福山町は、健康食品として脚光を浴びている黒酢の産地。壺（つぼ）を使った露天仕込みという独自の製法には、200年の伝統がある。昔は、この峠の難所を越えて黒酢を運ぶ途中にしばしば壺が割れたことが、その名前の由来だという。亀割峠を下り切ると、目の前に錦江湾が開け、桜島が間近に迫ってきた。国道が通っている海岸近くにまで山が迫り、その傾斜地に黒酢の壺をびっしりと並べた壺畑が点在している。

福山で黒酢造りが始まったのは江戸時代後期。その始まりには諸説あるが、要は中国南部の製法が黒酢造りの好条件がそろったこの地に伝わって根付いた、ということになる。

その条件とはまず、四季を通じて温暖で寒暖の差が少ない気候。そして、福山港が米の集積港だったことや、薩摩藩内で島津義弘が朝鮮から連れ帰った陶工たちに始まる薩摩焼が盛んに作られていたことなど、原料や資材の入手が容易だったことが挙げられる。

この地には戦前まで24軒の醸造所があったというが、現在は7軒。創業1820（文政3）年の伊達醸造は、味噌や醤油の醸造も手掛ける昔ながらの醸造所だ。黒酢の仕込みは春と秋の年2回、4月と10月にそれぞれ1カ月余りかけて行われる。取材当日は今にも雨が降り出しそうな空模様で、約6千個の壺が並んだ壺畑では、早朝から慌ただしく仕込み作業が始まっていた。

黒酢の原料は、玄米と米麹に水。米麹は自家製で、蒸し米に麹菌をまぶして数日間寝かせて作る。仕込み作業は、壺の底に米麹を入れて水を注ぎ、そこに蒸したての玄米を入れて更に水を加える。最後に片手で粉のようなものを振り入れては、しきりに中をのぞき込んでいる。

「あれは振り麹。乾燥させた麹で隙間なく覆いふたをすることで、雑菌を防ぎます。表面に浮かんだ振り麹は発酵と共に外側からゆっくりと沈んでいきます」

工場長の板元秀和さんがそう説明してくれた。

仕込みを終えた壺の中では、麹菌の働きによる糖化、アルコール発酵、酢酸発酵という変化が自然に進んでいき、半年ほどで黄金色の酢が出来る。それを1年から長いもので3年かけてじっくり寝かせることで、まろやかで芳醇な黒酢になる。出来上がった黒酢はそのままでは酸度が強過ぎるので、適度に調整してから出荷されていく。

仕込みの後は時折、壺一つひとつの発酵の具合を確かめて、その度合

❶仕上げに振り麹で表面をしっかり覆い、壺にふたをして仕込みが完了する
❷壺一つに入れる蒸し米の量は約9キロ
❸既に仕込みが終わった一角にかなり古そうな壺が並んでいた。昔は上部についている耳の部分にひもをかけて運んでいたという
❹じっくり熟成した黒酢は酸味は強いがまろやかな味わい
協力／合資会社伊達醸造（Tel.0120-592-016）
http://datejozo.co.jp/

いに応じてかき混ぜる作業をしながら、じっと熟成を待つ。まるで畑の作物の成長を待つように、この地の風土が黒酢を育むのを見守るのだ。

▼取材協力クラブ

国分隼人ライオンズクラブ（山元正良会長／49人）＝1961年11月21日認証／スポンサー：鹿児島、宮崎両ライオンズクラブ／鹿児島県内で2番目のクラブとして結成された後、69年に霧島ライオンズクラブ（旧霧島町）、2002年には国分隼人天降川縄文（こくぶはやとあもりがわじょうもん）（現きりしまシニア）ライオンズクラブをエクステンション。霧島市内では現在3クラブが活動している。アクティビティでは錦江湾クリーンアップ作戦や鹿児島神宮の清掃、天降川沿いの桜植樹など、地域の環境を守る活動に力を入れる他、国分隼人ライオンズ杯幼児サッカー大会の開催や献血などに取り組んでいる。今年11月に結成55周年を迎え、国際協会創設100周年を兼ねて時計塔寄贈などの記念事業を実施した。

隼人塚（はやとづか）：『古事記』『日本書紀』に登場する「熊襲（くまそ）」と「隼人」は、古代の南九州に居住していた人々で、隼人族の祖は火須勢理命（ホスセリノミコト）すなわち海幸彦だとされている。大和朝廷はこの地に大隅国府を置いて支配を広げ、これに対して720年、隼人の乱が起こったが、隼人族は1年半近くの戦いの末に敗れた。隼人塚はその供養のために建てられたと伝わっている。塚は1921（大正10）年に国の史跡に指定されており、高さ約3メートルの盛り土の上に五重石塔3基と四天王の石像が立っている。近年行われた発掘調査によって平安時代後期の建立と判明した。国分平野にある城山公園や姫木山は隼人族が籠もったという山城で、後に島津家によって城が築かれた

読者から――11月号

■食について考える機会に

「フードバンク」。最近よく耳にする言葉ですが、実際の内容がどういうもので、どのような活動をしているのか分かりませんでした。しかし、今回の特集を読ませて頂いたことで、少しは分かるようになりました。食を通じて改めて考えさせられる課題だと思います。

新潟県・三条中央ライオンズクラブ●田中範之

メルビン・ジョーンズの金言録に、「真の友愛は、人々がお互いに、信頼と尊厳を持って働き、そして食を分かち合うところに生まれる」という言葉があると聞いています。これまで、フードバンクに関して知識はありませんでしたが、明日の食事を心配しないでいられることが、どんなに幸せであるか実感しました。また、フードバンクが、自分の欲しいものを選べるライオンズ・フードとして確立されれば、それは「与える」とか「施し」ではなく、「食を分かつ」にふさわしい考えであることを教えられた特集でした。

神奈川県・小田原白梅ライオンズクラブ●大南修平

■活性化の実践例を参考にする

クラブの活性化はライオンズクラブ共通の課題である。SCENEやクラブ・リポートで、各クラブのさまざまな活動ぶりを読むことは、非常に参考になるものだ。「理論より実践」とはよく言われることだが、実践例を参考にし、実行に移すのは難しいことではないはず。従って、今後も出来るだけ多くのクラブの活動や、活性化成功例を紹介することを心掛けてほしい。

広島ライオンズクラブ●久保行夫

■ライオンズクエストについて

「3分間ライオンズ」でライオンズクエストが紹介されていました。今期、地区ガバナー公式訪問の質問書の中で、ライオンズクエストの教育プログラム推進について各クラブに聞いています。しかし、クラブからは、具体的な知識が無く活動方法が分からない、理解が深まっていないという意見が出ました。また、研修会に2度参加したが、非常に難しい、予算的に厳しい、といった後ろ向きな答えが多く、勉強・理解不足の現状と、本当にやろうという決意がない状況が浮かび上がってきました。

確かにライオンズクエストが何かよく分からないという会員が相当数いると思います。逆にクラブによっては、かなり意識の高いところも出てきており、今年度実際に行動に移すクラブもあります。徐々に状況は変わっていくと思いますので、頻繁にライオン誌で取り上げてください。

福岡県・北九州第一ライオンズクラブ●野々村良紀

読者プレゼント

■霧島の薩摩焼酎「アサヒ」を読者5人に

今月号「ふるさと探訪」(49〜53ページ)で紹介した鹿児島県霧島市にある日當山醸造㈱(常務取締役/ライオン濱崎真・国分隼人ライオンズクラブ)の薩摩焼酎「アサヒ」(鹿児島県限定/750ml)を5人の読者にプレゼントします。大正9年の創業以来守られてきた伝統の銘柄は、男っぽい骨太の風味。芋焼酎をこよなく愛する、国分隼人ライオンズクラブの山元正良会長おすすめの一品です。

プレゼントをご希望の方は、はがきに「アサヒ」と明記し、氏名、クラブ名、住所、電話番号をご記入の上、ライオン誌プレゼント係までご応募ください。本誌へのご意見、ご感想もお書き添えください。締切は1月末日。応募多数の場合は抽選となります。

【宛先】〒104-0028 東京都中央区八重洲2-6-15 JOTOビル9階 日本ライオンズ事務所・ライオン誌
＊オンライン応募はライオン誌ウェブマガジン(www.thelion-mag.jp)の「プレゼント応募」から。

〈56ページクイズの解答〉第1問=c./第2問=a./第3問=c./第4問=a./第5問=b.

『ライオン誌』バックナンバーから、読者の皆さんにぜひもう一度読んで頂きたい記事をピックアップ。スペースの関係上、多少の編集を加えている場合があります。

●1973年6月号

「老夫婦の言葉」

吉能久晃（北海道・小樽中央ライオンズ）

先頃、教え子の一人が結婚した。全くのおきゃんで、この先どうなるのかといつも心配のタネであった彼女なのだが、年と共に落ち着きが出てきて、女子大を見事にパスして、私たちの仲間をびっくりさせたのも、つい最近のように思われる。大学での英文学の専攻を終えて、結婚にゴールインした彼女の幸せに、胸を弾ませている。

初々しい中にもあでやかな花嫁姿に相対した時、我が子が嫁いでいくかのような錯覚に襲われて、感慨ひとしおのものがあった。彼女が今日ここまでたどり着くのにどれほどの年月を要したであろうと、その昔がしみじみ思い出された。叱られることが多く、ほとんど褒められることのなかった彼女、しかし不思議に、叱られても叱られてもすぐ笑顔に戻れた彼女、英語が好きで怒鳴られながらも骨身を惜しまず努力を続けた彼女、思い出は尽きない。祝辞の指名を受けてハッと我に返った私だったが、マイクの前に立ってきわめて自然に口から出た言葉、それが「Slow and steady wins the race」であった。ほんとうに何の抵抗もなしに、心の中からほとばしった言葉であった。

2年前、私はオックスフォードの、とある下宿屋の一室に、老いのせまるこの身にムチあて、英語の研究にいそしんでいた。しかし、大学から持ち帰る膨大な課題の消化は、決して容易なものではなかった。時折、窓辺を通り過ぎる英国人家族の楽しそうな姿を目にして、少しもはかどらない自分の勉学と引き比べては、ややもすれば絶望的なためいきすらも禁じえなかった。いっそ全てを投げ出してしまおう、と思ったことも再三であった。夜更けた空にじっと見入りながら、望郷の念にかられ、日本の地を踏む日を夢見ては、気を取り直して書物のページをめくり続けるのであった。しかし、思うように成果も上がらず、むしろ焦燥の毎日を送ることが多かった。

この下宿の老夫婦は、典型的な英国人気質の持ち主で、口数の少ない中にも実直な、そして勤倹な人柄が日常生活の全てにうかがえて、行動そのものが生きた教訓であった。

そんなある日、夕食後のひと時、私にしみじみと語ってくれたのが「Slow and steady wins the race」であった。堅実に一歩一歩進んでいけ、と教えてくれたのである。焦ってはいけない、と教えてくれたのである。異国の空で、一体自分はどうなるのであろうかと自信を失いかけていた私を、この上なく愛し、励ましてくれたあの老夫婦の教えは、私の終生忘れえぬ思い出となったのである。起死回生の思いで勉学を続けた私は、無事予定を終えて祖国の土を踏んだのであったが、再び教壇に立った今日、いまさらながら人の心の温かさが、身にしみる思いの毎日である。

彼女はりっぱに成長した。よき伴侶も得た。明日からの生活は、幸福に満ちあふれているであろう。そして、必ずや美しい家庭を築きあげていくことであろう。しかし、人生は長い。私はあえて言いたかった「Slow and steady wins the race」と。

あの英国での老夫婦の愛のまなざしを、じっと胸に抱きながら「負けてはいけないよ」と。

ライオン誌例会のススメ
―次の例会ですぐ使える情報

ライオンズ百科

■ライオニズムの母なるクラブ

1917年のライオンズクラブ創設時、メルビン・ジョーンズはシカゴのビジネス・サークルの幹事だった。1908年にビジネス上の利益を求める事業家たちによって結成されたこのサークルは、後にシカゴ・セントラル ライオンズクラブとなる。同クラブのウェブサイトには当時の経緯がこう記されている。

「ジョーンズの呼び掛けにより、1917年6月に全米から同様のクラブの代表がシカゴに集って協会が発足したが、シカゴ・セントラルクラブは何らかの理由でその年8月まで登録しなかった。そのため最初のチャーター・クラブにはならなかったが、世界の人々には『ライオニズムのマザー・クラブ』と見なされた」

シカゴ・セントラル ライオンズクラブのウェブサイト

このマザー・クラブには協会創設当初から、世界各国の会員が例会訪問に訪れてきたという。現在、シカゴ・セントラル ライオンズクラブの例会は毎月第2水曜日12時から（会場：The Chicago Lighthouse, 1850 W. Roosevelt Road）と、第4火曜日17時半から（Salerno's Restaurant, 1201 W. Grand Avenue）開催。

この日・この月

ライオンズクラブが創設された**1917年**は、日本の年号では大正6年。1914年のサラエボ事件を機に勃発した第1次世界大戦の最中で、日本は日英同盟に基づいて連合国の一員として参戦していた。17年1月にはイギリス政府から日本艦隊の欧州派遣を要請され、地中海に駆逐艦隊を派遣している。同年4月にはアメリカがドイツに宣戦布告して参戦。人類史上最初の世界大戦と言われる戦争は足かけ5年にわたって続き、900万人以上の兵士が戦死した末、18年に連合国側の勝利で終結した。

大正6年の日本では、5月に志賀直哉が『城の崎にて』を発表。9月に金の輸出が禁止されて金本位制が停止した。産業界では、6月に現在の味の素（当時は鈴木商店）、9月に森永乳業（同・日本煉乳株式会社）、12月に明治乳業（同・極東練乳）が創立されている。

クイズ de 例会

〈第1問〉ライオンズクラブが創設された年は？

a. 1905年　b. 1915年
c. 1917年

〈第2問〉国際協会の創設者メルビン・ジョーンズが生まれたアメリカの州は？

a. アリゾナ州
b. アラバマ州
c. アラスカ州

〈第3問〉創設者メルビン・ジョーンズの職業は？

a. 銀行業　b. 証券業
c. 保険代理業

〈第4問〉国際協会創設に向け、最初の会議が開かれたアメリカの都市は？

a. シカゴ　b. ボストン
c. ニューヨーク

〈第5問〉日本初の東京ライオンズクラブが結成された年は？

a. 1920年　b. 1952年
c. 1969年

★回答は54ページ下

2月号予告

特集 **シカゴ国際大会への誘い**

2017年6月30日から7月4日、ライオンズクラブ発祥の地であるアメリカ・イリノイ州シカゴで、国際協会の100周年を祝う第100回国際大会が開催される。記念すべき大会の舞台となるシカゴの情報を紹介する。

Official publication of Lions Clubs International

EXECUTIVE OFFICERS
President Chancellor Robert E. “Bob” Corlew, Milton, Tennessee, United States; Immediate Past President Dr. Jitsuhiro Yamada, Minokamo-shi, Gifu-ken, Japan; First Vice President Naresh Aggarwal, Delhi, India; Second Vice President Gudrun Yngvadottir, Gardabaer, Iceland; Third Vice President Jung-Yul Choi, Busan City, Korea. Contact the officers at Lions Clubs International, 300 W 22nd St., Oak Brook, Illinois, 60523-8842, USA.

DIRECTORS
Second Year Directors
Melvyn K. Bray, New Jersey, United States; Pierre H. Chatel, Montpellier, France; Eun-Seouk Chung, Gyeonggi-do, Korea; Gurcharan Singh Hora, Siliguri, India; Howard Hudson, California, United States; Sanjay Khetan, Birgani, Nepal; Robert M. Libin, New York, United States; Richard Liebno, Maryland, United States; Helmut Marhauer, Hildesheim, Germany; Bill Phillipi, Kansas, United States; Lewis Quinn, Alaska, United States; Yoshiyuki Sato, Oita, Japan; Gabriele Sabatosanti Scarpelli, Genova, Italy; Jerome Thompson, Alabama, United States; Ramiro Vela Villarreal, Nuevo León, Mexico; Roderick “Rod” Wright, New Brunswick, Canada; Katsuyuki Yasui, Hokkaido, Japan.

First Year Directors
Bruce Beck, Minnesota, United States; Tony Benbow, Vermont South, Australia; K. Dhanabalan, Erode, India; Luiz Geraldo Matheus Figueira, Brasília, Brazil; Markus Flaaming, Espoo, Finland; Elisabeth Haderer, Overeen, The Netherlands; Magnet Lin, Taipei, Taiwan; Sam H. Lindsey Jr., Texas, United States; N. Alan Lundgren, Arizona, United States; Joyce Middleton, Massachusetts, United States; Nicolin Carol Moore, Arima, Trinidad and Tobago; Yasuhisa Nakamura, Saitama, Japan; Aruna Abhay Oswal, Gujrat, India; Vijay Kumar Raju Vegesna, Visakhapatnam, India; Elien van Dille, Ronse, Belgium; Jennifer Ware, Michigan, United States; Jaepung Yoo, Cheongju, Korea.

Lions Clubs International Headquarters
300 W 22ND STREET OAK BROOK IL 60523-8842 USA
TEL.(630)571-5466 FAX.(630)571-8890
Web site: www.lionsclubs.org

ライオンズクラブ国際協会の公式出版物であるライオン誌は、国際理事会の認可を得て次の20カ国語で発行されるｰ英語、スペイン語、日本語、フランス語、スウェーデン語、イタリア語、ドイツ語、フィンランド語、韓国語、ポルトガル語、オランダ語、デンマーク語、中国語、ノルウェー語、アイスランド語、トルコ語、ギリシャ語、ヒンディー語、インドネシア語、タイ語

ライオン誌日本語版委員会
国際理事　安井 克之
国際理事　佐藤 宜之
国際理事　中村 泰久
委員長　石井 博之（334複合地区）
編集長　佐藤 義則（332複合地区）
委　員　久津間康允（330複合地区）
委　員　佐々木忠康（331複合地区）
委　員　渡邉 信也（333複合地区）
委　員　中村 房雄（335複合地区）
委　員　矢野 敏明（336複合地区）
委　員　小柴 登司（337複合地区）

一般社団法人日本ライオンズ
ライオン誌日本語版委員会
〒104-0028東京都中央区八重洲2-6-15 JOTOビル9階
TEL.(03)6674-8777 FAX.(03)6674-8781
E-mail. edit@thelion.jp
Website: www.thelion-mag.jp

編集室

これからの会員のために

ライオン誌
日本語版委員
◉
矢野敏明
（島根県・松江葵）

私がライオンズクラブに入会したのは今から27年前のことです。その頃は「ライオンズに入れてあげるよ」という雰囲気で、会員委員の方々に大変気を使った思い出があります。それから数カ月後に開かれた新会員研修会で、今はもう亡くなられた梅原亨元国際理事が講師をされ、「スズラン給食」の話をされたことがとても印象に残っています。東北の一クラブが始めた活動がやがて国を動かし、全国的な完全給食の実現につながった日本のライオンズ史に残るアクティビティで、『ライオン誌』でも度々紹介してきました。

そして今、11月号本欄で久津間康允委員も述べられているように貧困問題が表面化し、本誌特集で「子どもの貧困」や「フードバンク」を取り上げています。

私どものクラブでも、先月の例会で社会福祉協議会の方から子ども食堂についてお話を聞きました。昭和26年には全国で２０４万人だった生活保護受給者数は、一時は88万人に減ったものの、ここ20年で２１５万人に増加し、しかも都市部が顕著だそうです。街には物があふれ、コンビニがどこにでもあり、買いたい物は自由に手に入る現在と昭和20年代では、「貧困」の言葉の意味が大きく変わってきていると考えます。

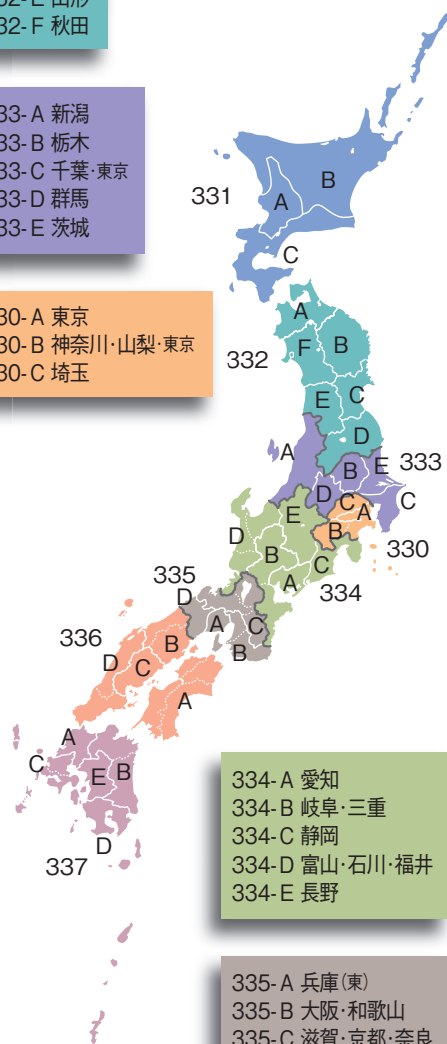
社会も生活も人も多様化している今、我々がどのような方法で、奉仕を通じて社会に貢献していけるのかが問われていると思います。人と人との関係がおろそかになりがちな時代ではありますが、年齢や性別、職業に関係なく、奉仕を志す人は大勢おられます。

これからはその人たちを呼び込める多様なクラブがあっても良いのではないでしょうか。これまでの良き伝統は受け継ぎながらも、会費は高くないか、例会は今の形で良いか、もっと多様にコミュニケーションを取れないか等々、今ここにいる私たちが、これからの会員のために考えていかなければなりません。

『ライオン誌』ウェブサイトでは初版から最新版までの全ページが見られるようになりました。これからのライオンズのために、ぜひ過去の記事も役立てて頂きたいと思います。

日本ライオンズクラブ分布図

2016.11.30　eMMR ServannA報告による

地区	クラブ数	会員数	増減	男女別会員数		家族会員数			
				男性	女性（割合）	子会員	増減	男性	女性
330-A	200	6,449	46	4,668	1,781（27.6）	1,848	2	605	1,243
330-B	166	4,571	72	3,835	736（16.1）	481	−4	129	352
330-C	85	2,386	35	1,935	451（18.9）	378	0	121	257
330 計	451	13,406	153	10,438	2,968（22.1）	2,707	−2	855	1,852
331-A	73	2,770	36	2,226	544（19.6）	459	0	82	377
331-B	85	2,758	16	2,216	542（19.7）	480	−1	65	415
331-C	51	1,954	32	1,593	361（18.5）	337	5	85	252
331 計	209	7,482	84	6,035	1,447（19.3）	1,276	4	232	1,044
332-A	64	2,185	62	1,695	490（22.4）	386	8	84	302
332-B	53	2,452	36	1,619	833（34.0）	857	4	149	708
332-C	67	1,916	27	1,359	557（29.1）	528	3	110	418
332-D	72	2,568	78	1,965	603（23.5）	558	31	117	441
332-E	56	2,088	54	1,620	468（22.4）	398	13	63	335
332-F	44	1,402	2	1,019	383（27.3）	330	3	58	272
332 計	356	12,611	259	9,277	3,334（26.4）	3,057	62	581	2,476
333-A	74	3,262	34	2,577	685（21.0）	646	4	166	480
333-B	48	1,779	37	1,124	655（36.8）	613	28	160	453
333-C	133	3,529	−10	2,698	831（23.5）	546	−37	161	385
333-D	54	2,479	33	1,790	689（27.8）	716	−10	173	543
333-E	82	4,902	81	3,178	1,724（35.2）	1,957	−28	529	1,428
333 計	391	15,951	175	11,367	4,584（28.7）	4,478	−43	1,189	3,289
334-A	120	6,988	101	4,629	2,359（33.8）	2,409	−12	488	1,921
334-B	78	4,793	23	3,265	1,528（31.9）	1,690	−61	346	1,344
334-C	80	3,532	51	2,893	639（18.1）	570	−2	80	490
334-D	97	5,943	138	3,952	1,991（33.5）	2,130	61	392	1,738
334-E	52	2,722	36	1,911	811（29.8）	836	0	221	615
334 計	427	23,978	349	16,650	7,328（30.6）	7,635	−14	1,527	6,108
335-A	81	2,160	19	1,695	465（21.5）	220	−2	29	191
335-B	169	6,730	113	4,887	1,843（27.4）	1,567	44	326	1,241
335-C	115	4,124	75	3,449	675（16.4）	418	7	97	321
335-D	64	2,055	12	1,591	464（22.6）	326	−7	73	253
335 計	429	15,069	219	11,622	3,447（22.9）	2,531	42	525	2,006
336-A	147	6,291	186	4,759	1,532（24.4）	1,136	35	218	918
336-B	95	3,409	17	2,700	709（20.8）	497	−1	79	418
336-C	96	3,542	100	2,971	571（16.1）	392	44	72	320
336-D	93	3,466	75	2,856	610（17.6）	441	17	45	396
336 計	431	16,708	378	13,286	3,422（20.5）	2,466	95	414	2,052
337-A	116	5,597	110	4,018	1,579（28.2）	1,269	30	273	996
337-B	69	2,964	71	2,180	784（26.5）	775	13	164	611
337-C	80	4,206	−27	2,794	1,412（33.6）	1,463	−70	425	1,038
337-D	76	2,410	59	2,060	350（14.5）	187	−1	36	151
337-E	58	1,824	57	1,478	346（19.0）	255	33	73	182
337 計	399	17,001	270	12,530	4,471（26.3）	3,949	5	971	2,978
総計	3,093	122,206	1,887	91,205	31,001（25.4）	28,099	149	6,294	21,805

世界のライオンズ

2016.11.30　国際協会集計

国または領域………212　クラブ数………47,195

会員数……1,405,358　会員数増減……25,868

奉仕の歴史を奉仕で祝う 100周年記念奉仕チャレンジ

国際協会創設100周年祭を、ライオンズの神髄である奉仕によって祝おうと、2014年度から「100周年記念奉仕チャレンジ」がスタートしました。「青少年の奉仕を促そう」「視力を分かち合おう」「食料支援をしよう」「環境を保護しよう」の四つの奉仕分野で各クラブが事業を行い、それぞれ2500万人、計1億人に奉仕しようという挑戦です。実施期間は14年7月から18年6月までで、4年度にわたって続けられることになります。

YOUTH
2500万人に貢献

青少年の参加を促そう - 地域の青少年を助ける奉仕事業を行ったり、あるいはレオや地域の青少年に一緒に奉仕を行ってもらい、次世代のボランティアを育てることも出来ます。

VISION
2500万人に貢献

視力を分かち合おう - 目の不自由な子どもや隣人の役に立つ事業を計画して、視力の贈り物をしましょう。

HUNGER
2500万人に貢献

食料支援をしよう - フードドライブ（食品回収）や炊き出し支援活動などを通じて、家庭や地域の健康を支えます。

ENVIRONMENT
2500万人に貢献

環境を保護しよう - 環境を保護・美化する事業を企画し、皆にとって住みよい町づくりを目指しましょう。

ライオンズクラブ国際協会創設100周年のテーマは、「ニーズのあるところに、ライオンズがいる」。
地域のニーズに応えるアクティビテイで、100周年祭を祝う記念奉仕チャレンジに参加しましょう。

ライオン誌1月号
昭和33年12月19日付第三種郵便物認可　定価180円　送料実費78円
2016年(平成28年)12月20日発行　毎月1回20日発行　第59巻第7号
発行／一般社団法人日本ライオンズ　ライオン誌日本語版委員会　〒104-0028 東京都中央区八重洲2-6-15 JOTOビル9階　Tel 03-6674-8777
印刷／凸版印刷株式会社

世界中の子どもたちの笑顔が見たい！

300 W 22ND STREET, OAK BROOK, IL 60523-8842, USA
Phone: 630-571-5466　Fax: 630-571-5735
E-mail: lcif@lionsclubs.org
http://www.lcif.org/JA/index.php